キャンプファイヤー事例集

日本ボーイスカウト兵庫連盟

はじめに

県コミッショナー
山田明良

大自然の中での生活は多くの刺激と感動を与えてくれます。特に日頃都市的生活を送っているものにとっては非日常の日々は、自由とか自律とか人間の持っているいろんな感情を沸き起こしてくれます。さらに長く自然に留まっていると、遠い昔人間が自然と戦っていたころの本能のようなものが意識するしないに拘らずフッフッと身体の隅々に感じるようになります。特に少年の時はこうした本能が敏感に感じ取られるのです。

そして陽が西の端に傾き夜のシジマが覆う頃、自然との一体感は頂点に達し身も心も鋭敏となってきます。そこに赤々と燃える火があればお膳立ては充分です。少年たちは興奮し、本能的に歌がわいてきます。リズムがあれば踊りだします。これこそキャンプファイヤーです。B—P卿は、この少年たちの持つ自然との一体感をより教育的に取り入れられました。たんに興奮させるのではなく興奮にいたる道筋のなかに感動を、興奮のなかに芝居を、消え行く炎に清らかな心を，そして全体を通して神の見守りを感じるキャンプファイヤーを——これこそ営火——ボーイスカウトの営火なのです。

このたび兵庫連盟のトレーナーチームがこれこそ営火だという営火のプログラムヒント集を作成いたしました。このヒントをもとに感動と感激のそしてスカウトが嬉々として参加する営火が展開出来ることを願っています。

目　次

○　営火の目的と意義
○　教育面の準備・教育面の意義
○　運営面の準備
　1．役割分担
　2．場所設定
　3．プログラムを組む
　　（イ）構成要素
　　（ロ）プログラムの流れ
　　（ハ）プログラムに関しての留意点
　　（ニ）出し物について
　4．薪組について
　　種類・　井桁型
　　・　ピラミット型
　　・　インディアン型
　　・　星型
　　・　かがり火型　①②③
　5．点火方式
　　1．たいまつ（トーチ）　A　直点火
　　B　トーチサービス
　　C　聖火ランナー
　　D　灯油帯導火式
　　2．マジック点火方式　A　弓矢点火式
　　B　流星（花火）点火
　　C　薬品方式
　　D　電気方式
　　E　フラッシュ点火式

6．ファイヤーに必要な準備

7．ファイヤー実施にあたっての安全

○　キャンプファイヤー実施の一例
○　スカウト野営と営火
○　営火の仕方
○　営火のプログラム例
○　営火用ソング例
○　ローインパクト営火

（スカティング誌より引用）

キャンプファイヤーの目的と意義

人間は古来、火を発見し、火によって生きる為の種々の恩恵を受けてきました。
現在、人間だけの特権として考えられていた事が、人間だけの特権に在らずと、学問（人間学）の中で言われています。動物としての人間、他の人間以外の動物を含め、火に寄る恩恵は計り知れないものがあります。

Ｂ－Ｐ卿はブラウンシー島のキャンプ報告で、「理論的知識を教えるには、キャンプファイヤーの周りに座っている時、出来るだけ多くの事例をあげながら、少しずつ教えるのが一番良い方法である事を我々は発見した。」と述べられています。

火を囲んで隊長とスカウトが心を触れ合わせ、感動的な話によって、宗教的な情操を育てスカウト精神の指導をし、また、例を上げ、所作などを交えながら面白い話によってスカウト技能の指導を行なう事が出来ます。

Ｂ－Ｐ卿とキャンプファイヤー

ベーデンパウエル卿の意図したキャンプファイヤーはどんなものであったろうか。
スカウティング誌（NO１１２．昭和37年6月号）に紹介された「スカウト野営の基準」の中から抜粋してみよう。

1907年ブラウンシー島での最初のスカウトキャンプの時、B－Pはどんなキャンプファイヤーをしたであろうか。レイノルズの書いた本とか、数年前、その時参加した少年の中の生き残りの２人の老人スカウトの思い出をルクセンブルグの放送局が放送した事があったが、それらを総合すると、B－P卿は主としてヤーン（物語、夜話）を多く用い、その間にエーンゴンヤーマの歌とか、イエールなどを加えたようである。

指導者実修所コースは、B－Pの意図のすべてをもっとも忠実に伝えるのであるが、そのうちのキャンプファイヤーについて要点を挙げると

① キャンプファイヤーは訓練プログラムの最終確定的な部分である。
② 歌を歌う事は、それだけで一つの部門なのであるから、キャンプファイヤーのつけたしに歌を教えるのは、この区別をわきまえないといえる。ただし、キャンプファイヤーで歌っていけないのではない。
③ 劇やスタンツを多種多様に織り交ぜなければキャンプファイヤーでないという考え方はとりたくない。
④ 楽しい、面白い、そして仲良しにさせられるものでなくてはならない。
⑤ 上手くやろうと努力するものでなくてはならない。
⑥ はっしゃいでもいいが、ばか騒ぎに終わらず、和やかな作業となるべきものである。
⑦ 結局は神に至る心を起こさせるヤーンである。

以上キャンプファイヤーとは何ぞやという本質の分析であるが、これは意味深

長な言い方と考えたい。我々は、歌と劇とでキャンプファイヤーのプログラムをうめてしまおうとする。歌ばかり続いては変化がないから、劇を歌と歌の間に入れる。結局、歌・劇・歌・劇のツートンカラーで塗りつぶそうとする。
それが一種の型になっている。こんなことで果たしてＢ－Ｐの意図にそうであろか。

キャンプファイヤーに定型はない

確かに実修所などで学んだキャンプファイヤーを唯一のものとして長年続け、これが正しいやり方で、それ以外は間違っていると信じている指導者に出会うが、決してキャンプファイヤーには定型といえるものはない。
方法、手段はスマートであるに越したことはないが、問題は中身であり、引用文の⑦の「結局は神に至る心を起こさすヤーンである」につきるのではなかろうか。周到に準備されたプログラム、点火方法、歌、スタンツ等は総合されたひとつのヤーンであるといえよう。

その中でもファイヤーチーフの話が、スカウトたちに特に大きな感銘を与えるであろうことをＢ－Ｐは予測したと思われる。スカウティング・フォアボーイズがヤーンの形をとっていることをみても、キャンプファイヤーにおけるヤーンが、スカウト達に将来へのインスピレーションを与えるものであるならば、成功といえるのではないだろうか。（千葉連盟県コミッショナー）

A different Patrol may be responsible for each night of the

Camp Fire is one of the happiest hours of camp. Songs, recitations and small plays follow each other on the programme.

week to provide for the performance. The Patrol can then prepare beforehand for the Camp Fire.

教育面の準備

○営火を待つ心を大切にする。
○日頃から歌を指導し、心から歌えるように。
○演奏会や隠し芸大会でなく、教育的効果とルールを忘れずに。
○出し物は営火の雰囲気に合うもので、自然を利用し、点火から終了までのプログラムをしっかり組む。
○“見るもの”“見せるもの”のどちらでもなく全員が参加することにより、楽しく成るものである事。
○日頃から充分な夜話の研究と準備をしておく。
○安全を常に考え、自然の状況、火の扱い、場所、道具を考える。

教育的意義（営火から得られるもの）

・参加者全員が火を中心にまとまる事で、一体感が味わえ、隊や班の気風を養う事が出来る。
・指導者とスカウト、スカウトとスカウトの素朴な心の触れ合いの場となる。
・自然の偉大さや、素晴らしさを身を持って感じ営火を楽しむ事で情緒豊かな人間を育てる事が出来る。
・一日の作業を終えた満足感に安らぎを与え、感情をさらに安定させてくれる。
・自然や火の神秘性に触れ、信仰の芽生えを育てる。

運営面の準備

（1）役割分担

・営火長（Ｆｉｒｅ　Ｃｈｉｅｆ）…指揮・夜話
営火の中心となる。
野営長、又は隊長などがなる。
点火、開会、閉会の宣言や夜話
全般的な雰囲気、気分の統一をする。
上席（北側）に位置する。

・進行係り（Ｙｅｌｌ　Ｍａｓｔｅｒ）…司会・進行

プログラムの進行、展開をする。間断を作らず、幕間を埋め、臨機応変な処置が出来、演出力を持っている。

営火の成否のカギを握る。

・営火係り（Ｆｉｒｅ　Ｋｅｅｐｅｒ）…火の大きさの調節。薪の担当。

司会者と緊密な連絡をとり、スムーズな進行に協力する。薪の準備、場所作り、薪組、趣向を凝らした点火法等準備を兼ねる事もある。

進行に合わせた火勢を強めたり終了後、後始末は火に関するものであるから重要である。

（２）場所の設定

・静かな雰囲気の出せるような場所。
・大きな木に囲まれ、参加人員に応じた平坦な空き地がある事。
・火が周囲や、木の上枝などに燃え移る心配の無い所。
・近くに電灯などの明かりの無い所。
・宿舎（サイト）から離れた所。
・自分達だけである事、他から営火場が見えない所。
・風の吹きさらしでなく、湿気の無い所、害虫の来ない所。

（３）プログラムを組む

イ．構成要素（４Ｓ）

①　Ｓｏｎｇ　　②　Ｓｔｕｎｔｓ（Ｓｋｉｔｓ）
③　Ｓｔｏｒｉｅｓ　　④　Ｓｈｏｗｍａｎｓｈｉｐ

① Ｓｏｎｇ　　明るく健康的で全員で歌えるもの。
ゲームソングや身振り（アクション）の入ったソングで盛りあげる。

② Ｓｔｕｎｔｓ（寸劇）　営火の演出効果を盛り上げるもの。
点火の劇化・機知に富んだ寸劇・素朴で即興的な劇

③ Ｓｔｏｒｉｅｓ（夜話）　隊長とスカウトを結ぶ心のベルト。
感動的な話・楽しくユーモラスな話

④ Ｓｈｏｗｍａｎｓｈｉｐ
単なる演出でなく、営火の心をくみ、皆の心を火を中心に喜び奮い立つように。

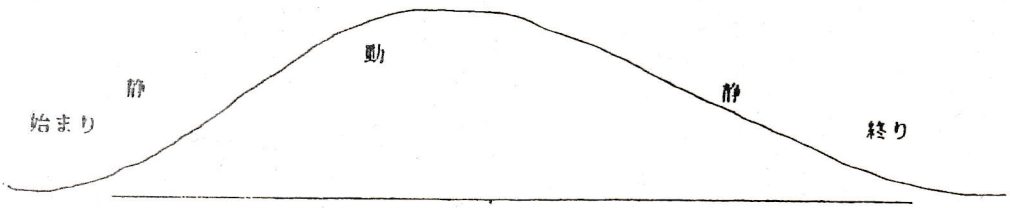
ロ．プログラムの流れ

入場　　始める前のざわめき、私語は禁物。

点火　　儀式化、劇化を考える。トリックには必ずピンチヒッターを。

進行　　静から動、動から静へリズムをつける。所要時間 60 分～90 分程度にまとめる。

退場　　静かに余韻を残す。



ハ．プログラムに関しての留意点

・全員が何等かの形で参加出来るようにする。
・身の回りにある物を工夫して、衣装や小道具を作る。
・営火の出し物にふさわしくない内容の物は避ける。
（テレビ等からの安易な借り物、残忍な行為、その他品性を疑うもの）
・プログラムの構成に注意する。
（歌やスタンツの割合、静と動との組み合わせ等）
・出し物の時間を考える。（普通は１つの出し物は５分以内）
・全体で１時間～1時間半の間で行なう。
・役割分担をしっかり決め全員が各責任者の指示に従って行動する。
・運営は打ち合わせを充分にして、スムースに流れるように心がける。

ニ．プログラムの出し物について

A）営火の歌

① 皆で楽しく歌う
☆ 明るく健康的で誰もが気持ち良く歌える歌を皆で歌う。全員が気持ち良く聞ける歌を楽しく歌う。
☆ どんな歌でも良いが、個人が勝手気ままに歌う事は許されない。
☆ 皆の良く知っている歌、皆で出来る合唱、輪唱、動作付き歌等がふさわしい。
☆ 日本、外国を問わず、民謡、ポップス、童謡、山や海の歌、ハイキング・ピクニック・キャンプの歌等をプログラムに盛り込みたい。

② 営火に適した歌
☆ 上品なもの、美しいもの、芸術的なものが良い。歌詞や曲の低級な卑俗なものは避けたい。
☆ 無邪気なものは良いが、余りに幼稚なものは避けたい。
☆ キャンプのテーマまた、班のソングとしての替え歌も良いが、無理をした不似合いな替え歌は好ましくない。

③ 営火は教室でも音楽会でもない
☆ 新しい歌を覚える場所ではない。あらかじめ練習しておき、おざなりな、

どうでもよい、歌えばいいというような歌い方は望ましくない。

☆ 楽しく揃った歌は、歌う方も聞く方も快く楽しい。
歌詞や、曲に自信が無い場合は同調であれば拍手かハミングで調和するとよい。

④ 楽しい雰囲気を作る

☆ キャンプファイヤーの歌は楽しく歌おうとする皆の気持ちとリードするリーダーの腕によって生きてくる。

☆ 楽器はハーモニカ・アコーデオン等、また、手拍子、薪や竹をたたいて伴奏すると楽しい。

B）営火でのゲーム

① 営火でのゲームのねらい

☆ 全員の心を「ひとつ」にする。

・個人的なゲームより全体的なゲームを考え、競争意識の強くなるゲームは避けたい。

・皆が一緒に出来、人数制限のないゲームを準備する。

☆ 楽しいムードを作る

・楽しいゲーム、おかしいゲーム等を準備し、全員で楽しく、和やかな雰囲気を作る。

・歌が入ったゲーム、心理ゲーム、クイズゲーム等が楽しい。

☆ プログラムに変化を与える

・踊りや、華やかな歌の後、静けさを取り戻すのに、多少頭を使うゲームを入れたりする事によって、全体のムードが変化し、プログラムに変化を与える事が出来る。

② 営火に適したゲーム

☆ 座っていても出来るゲーム

・照明はファイヤーのみと考え、また、安全上営火の周りを余り激しく動き回るゲームは避けたい。

・自分の席を離れず、座っていながら出来るゲームを準備する。

☆ 簡単なゲーム

・ゲームが中心ではないのでルールの複雑なものは避け、簡単なルールでリーダーの簡単な説明で実施出来るもの。

☆ 短時間のゲーム

・ゲームの為の営火ではないから、長時間になるものは不適当。

☆ 自然環境を利用したゲーム

・営火の光を度外視するようなゲームは避け、逆に薄暗く照明が一つである事を利用するとよい。

・野外でしかも、夜である事を利用したゲームをプログラムに盛り込む。

C）踊りについて

◎ 営火における踊りはスカウト・リーダーの個性を発揮し、創造性を豊かに育てる事が出来る。組や班で歌に振り付けを協力して考え、工夫し、苦心して完成させた時の喜び、大勢の仲間に発表し、好評を得た時の楽しさ、喜びは計り知れないものが有ります。スカウト同士、スカウトとリーダーの信頼をより一層深めます。

★ インディアンの踊り
★ アクション・ソング
★ フォークダンス
★ レクレーション・ダンス

※ 踊りについての留意点

- 皆が楽しく踊れるもの
- 動作が簡単で、直ぐ覚えられるもの
- 軽快なリズムで、歌いながら踊れるもの
- 営火の場で、難しい踊りを教えようとしない事
- 踊りを教える時は、最初に踊ってみせる
- 小道具を工夫して利用するのもよい
- 理論的に指導するのでなく、感覚的な面に重点を置く

D）スタンツ

① スタンツは機知を尊ぶ

- スタンツは劇とは即興という点で違う。

長い時間を掛けて練習する劇とは違い、スタンツは野営などの営火のおりにに短時間で実施するものであるから、自然の有り合わせの物を利用し、練習も短時間であり、すべての点で即興とならざるをえない。

・台本を覚え、セリフ通り喋るのでなく、話の筋、内容、人物をしっかり頭において、感情の起伏に注意を払い演じるよう心がける。アドリブもよい。

・セリフ、小道具もちょっとした思い付きがスタンツを盛り上げ、楽しい営火になる。

② 題材

・筋も説明的なものや、教訓めいたものより、野営地の民話、日常のニュース、キャンプ中の出来事、キャンプのテーマ等。

・物語、童話、落語、スカウティング・フォア・ボーイズの中から。

・各組、各班の同一テーマでするのも面白い。

例：山、U・F・O、B－P、宇宙、星、海、インディアン

※ 注意

・ 扮装は特徴をとらえ、それらしく扮する事であり、本物そっくりに仮装するのとは本質的に違う。（自然のものを利用するとよい）

③ 演ずるにあたって

☆ 班員の協力の結晶

・班員皆でするところに意義がある。

・班員の得意な面、良いところを集めて、協同のものとする。

・一生懸命やろうとする努力。

・素朴な即興的なもの。

☆ 演技時間とリハーサル

・一つの演技は2~3分。

・自分たちだけで楽しんでしまわない。

・時間を見つけてリハーサル。

☆ 動作とセリフ

・出演者と観客が火を中心に呼吸が合うように。

・無理に笑わせない、ユーモアと下品なふざけと混同しない。

・長いセリフや、やりとりよりもパントマイムの方がわかりやすく観客も集中する。

・動作は大きく、表現は豊かに、想像の中での五感の使いわけの練習。
例：喜び・おかしさ・悲しさ・恐れ・驚き・怒り・見る・聞く
触る・味わう・匂い

④ 舞台と照明

☆ 舞台は円形の野外。上手、下手、の区別なく出入りに変化を持たせられる。

・観客、周りの木立もセットとして利用。
・唯一つのファイヤーの火を利用。
・明るく、力強い演技は火に向かって。
・暗い、また弱さをあらわす時は薪の調節を。
・劇中での火に対する不敬な態度は慎む。

E）夜　話

① 夜話として考えられるもの

感動とは綺麗なものに触れて「きれいだなー」と思うことです。
世の中で一番綺麗なものは、人の愛です。

☆ 感動的な話による精神的指導

・平和、友情、騎士道、人命救助などの尊さ。
・ちかい・おきての理解
・神、父母、恩人への感謝や、報恩の奉仕の尊さ。
・健康や、真の幸福について。
・宗教的情操
・自然の美しさと大切さ。
・種々の訓練の話や、懐かしい話。

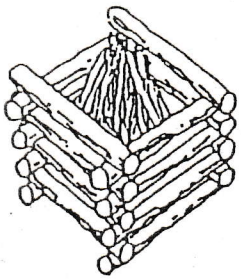
② スカウト技能に興味を起こさせる

・観察、推理、例をあげて追跡また、忍び寄りの話をする。
・キャンプでの翌日のプログラムに関連した面白い話をしてやる。

（4）薪組について

種　類

◎　井桁型 ……

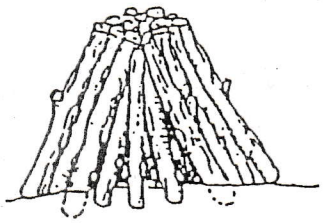


○大勢の人数のキャンパーの時に使うとよい組方で、準備に時間を要するが、大きな炎を出し、見た目も安定したもので、一般に使われている形です。

○普通点火が１ケ所の時は、向かい側から点火、点火口２ケ所の時、左右両側から点火口は井桁の中断にする。

○安定度や火の効果などから１ｍを超えない方がよい。

◎　ピラミット型 ……



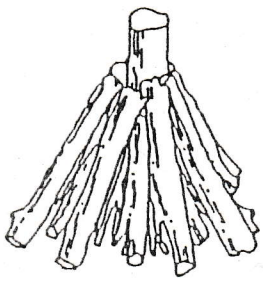
○火がつきよく、よく燃えるが、持続時間が劣る．親睦的な営火に使用されることが多い。

○崩れやすいのでしっかり組む。

基本になる４本の薪は根元を土の中に埋めるなどして固定するとよい。その中に薪を合掌させるように組、中心にそだを入れておく。

○点火口が１ケ所の場合は営火長の席の向かい側に作る。

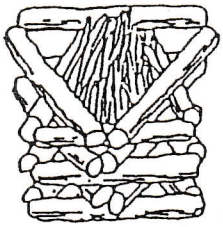
◎　インディアン型（ティピー型）



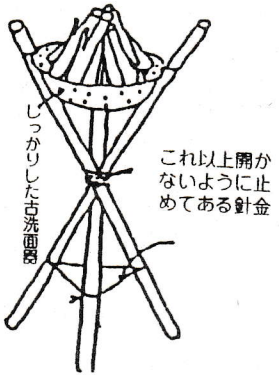
○細めで長めの薪のときは、この組型がよい。

○中心に太めの薪を立て、それに寄り掛からせるように組みます。火のつきやすい細めの薪やソダ背板薪などは内側にいれて組む。

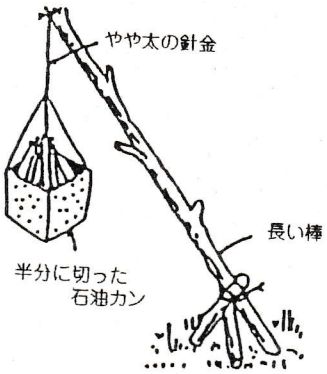
◎　星　型 …… ○太目の短い薪は六角星型に組むとよい。
3本の薪を三角に順次組み上げる。



◎　かがり火型　① …… ○しっかりした古洗面器に空気穴を開け、太めの針金で生木で作った三脚に取り付ける。



かがり火型　② …… ○半分に切った石油缶に空気穴をあけ、長い棒に針金でぶら下げる。
棒は倒れないように地面にしっかりと固定します。

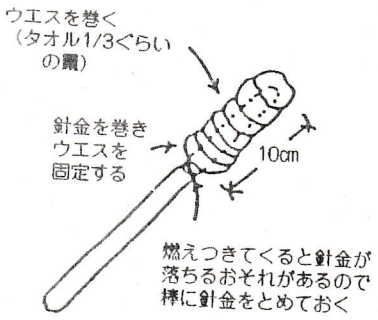


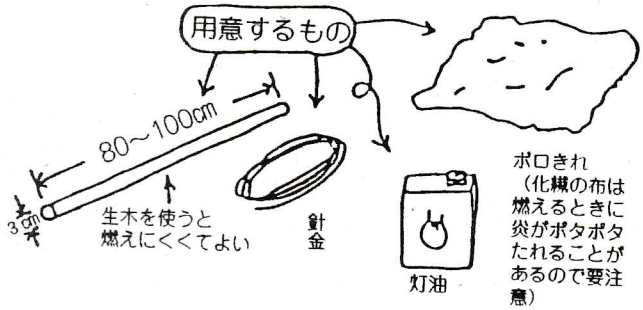
かがり火型　③ …… ○風が強くて大きな薪を燃やすことが出来ない場合がよくあります。大きな火は炎が風に煽られて渦を巻いたりするのでキャンパーが落ち着きません。空き缶にウエス（ボロ布）を入れ、灯油を染み込ませたものを幾つか作ってファイヤーの代用にしましょう。とても明るく、炎もまとまって危険がありません。

（5）点火方式

1）たいまつ（トーチ）点火方式

ごく一般的に行われている代表的なもので、一番確実な方法。
自然環境によくマッチし、素朴で、厳粛。
トーチは棒の先にボロ布を巻き、針金で固定し、灯油を染み込ませて使用する。

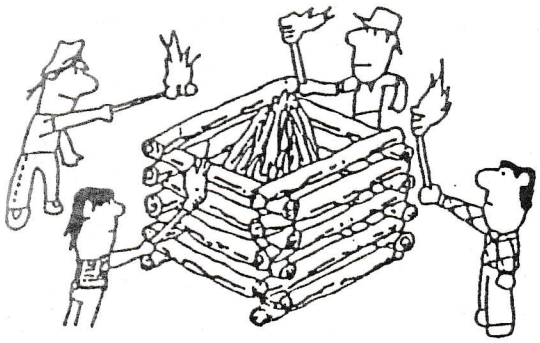




A．直火式

1本のトーチで入場し、ファイヤーに直接点火する方式です。
最も多く行われている方式で、だれにでも直ぐ利用でき確実な方法。

B．トーチ・サービス式

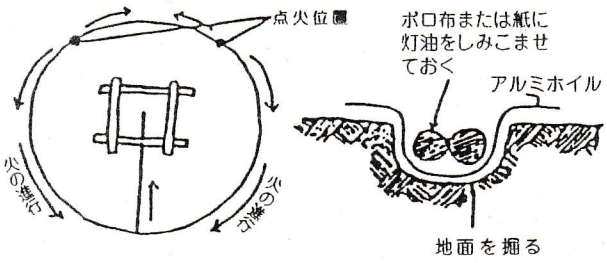


1本のトーチで入場し、ファイヤーを数人に分化して、トーチを持った人が同時にファイヤーに点火する方式。
班に編成されている場合によく利用される。

C．聖火ランナー式

点火はAと同様ですが、セレモニーとしてでなく、聖火というイメージを持たせる方式。
昼間にファイヤーを使用する場合には効果的な方式。

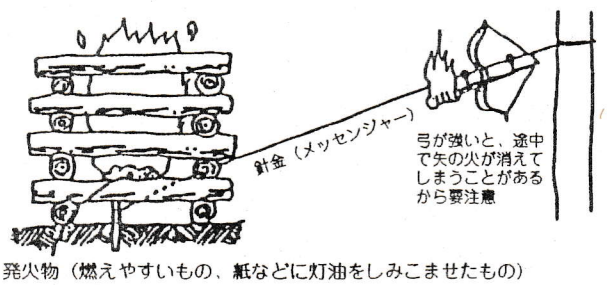
D．灯油帯導火式



ファイヤーに直接点火する方式でなく、ファイヤーの周囲に溝を掘り、アルミホイル等で灯油が漏れるのを防ぎながら１つの形の導火帯を作ります。
点火は導火帯の点火位置にトーチで点火する。この方式では、点火後ゆっくりと導火帯を火が進みファイヤーに点火されます。準備に時間がかかりますが、導火帯の炎の素晴らしさと、ファイヤー点火の醍醐味を味わう事が出来る。

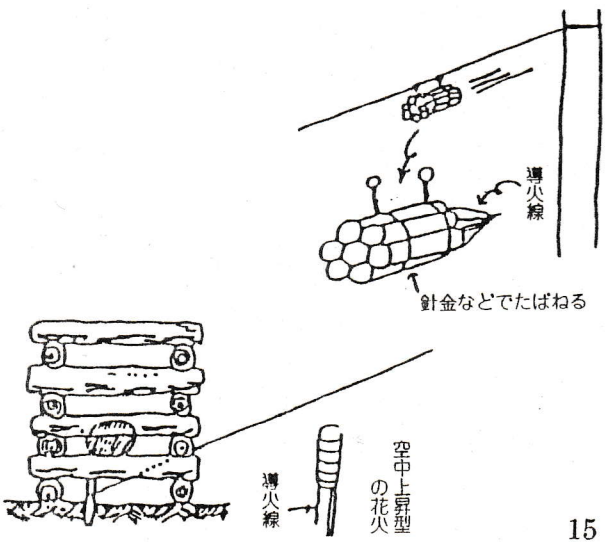
2）マジック点火方式

A．弓矢点火式



弓矢の先に松明をつけ、ファイヤーに直接落下させて点火する方式です。
弓矢だけで的を射る事は難しいので針金（メッセンジャー）を張り、それに添って落下させる。

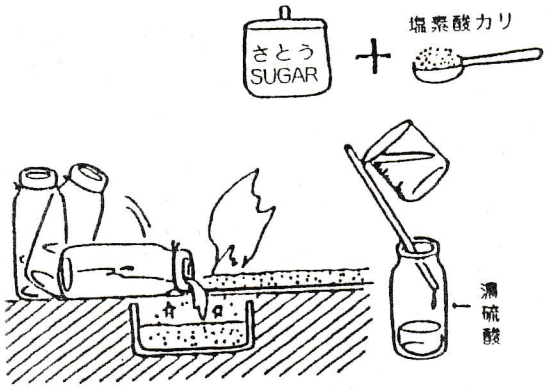
B．流星（花火）点火式



弓矢方式と同様ですが、矢を使わずに花火（空中上昇式のものを使用）を使って点火します。針金を張り、花火を数本束ねて使って、流星がファイヤーに飛び込み点火する感じを出します。
花火を使用する時は、花火の火がファイヤーに燃え移りやすいようにしておきます。

3）薬品方式

○　硫酸点火方式

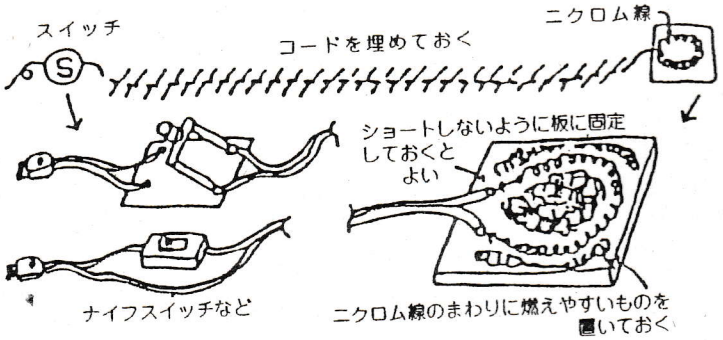


濃硫酸と砂糖、塩素酸カリュウムを使用します。砂糖と塩素酸カリュウムをそれぞれ２００ｇほど１対１によく混合し、これを燃えてもよい器に入れて井桁の中に入れて置く。木っ端などでカモフラージュしておく。濃硫酸を少し入れたビン（牛乳ビンでも可）が、糸を引けば倒れて器の中に入るようにセットする。糸は土をかぶせて見えないようにし、呪いか、魔術を使って点火する。

4）電気方式

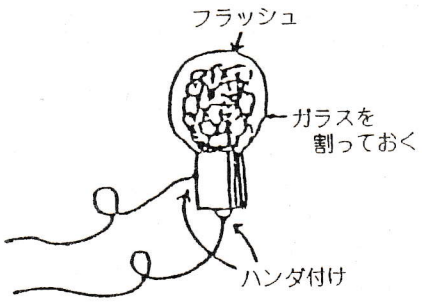
A.

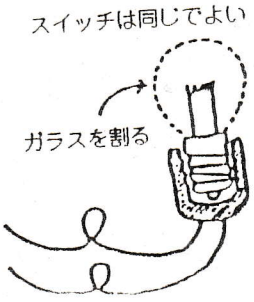
ニクロム線の発熱により、灯油を染み込ませたボロ布に着火する方式。



B．フラッシュ点火式

ニクロム線の代わりに、写真用フラッシュ・バルブ、又は豆電球のガラスを取り去って使用する。点火効果はニクロム線点火方式と同じです。





（6）ファイヤーに必要な備品

サイト用薪、補充用薪、点火用の薪（ソダ等）、新聞紙、灯油、マッチ、トーチ用棒、針金、軍手、火落し棒、消火用バケツ、スコップ、ナタ、ペンチ、ホイッスル、ほうき、ホース、懐中電灯、救急用品、防火水、シャベル。

（7）ファイヤー実施にあたっての安全

① 風の吹きさらしの所でなく、湿気や害虫の来ない所。
② 火が周囲の木や草に燃え移る心配の無い事。
③ 営火場までの道が暗い時は、誘導灯の設置をし、足元の安全に気をつける。
④ 防火用バケツを準備し、出し物は火に近づき過ぎない配慮が必要。
⑤ 土地の所有者、警察、消防署等への届け出が必要な場合がある。

キャンプファイヤー実施の一例

（子供の科学別冊“楽しいキャンピング”より）

１．集　合

時間を決めておいて、一定の場所に集合する。

グループ毎に集合が終わったら、準備係りの指示を受ける。

特に初めて経験する人の多い時は、次の指示をする。

① キャンプファイヤーの意義について簡単に述べる。

「火は遠い遠い私達の先祖が生活の中心として、長い歴史を持って今日に至った。私達はキャンプに来て原始の生活をしのんで、今夜はここに、キャンプファイヤーをする。皆で楽しくやるためにルールを守ろう。

② 私語はしない。

③ 係り以外は懐中電灯を使用しない。

④ グループの出し物については、たとえ、それがどんなにへたであっても最後まで見る。

⑤ 係りの指示に従う。

⑥ 他のグループの出演の時に、集まって自分のグループの演出の相談などしない。

⑦ 野次は禁止する。

２．営火場へ誘導

「遠き山に日は落ちて」の歌をハミングで歌って行くとよい。

３．営火場到着

全員キャンプファイヤー場を２～３週してそれぞれの場所に着席する。

４．営火入場

全員立ったままで「遠き山……」の歌を歌う中を営火長は森の中から二人の若者のかざす松明を先頭に入場し、営火長の座に着く。

５．点火と開会宣言

営火長の点火の合図で、二人の松明手は静かにひざまずきカンスルに点火する。全員は進行係りの合図によって座り「燃えろ　燃えろよ」の歌を歌う。終わって開会の言葉など。

（ここまでが初めの儀式）

6．プログラムに入る

① 全員の歌（元気のよいもの、例えば「幸せなら手をたたこう」「箱根の山」など皆で歌えるもの）

② 各班の紹介（「今晩はどなたです」の歌で順に紹介していく。本部が最後）

③ 歌、及び各班の出し物

④ ゲーム（レクレーション的な全員でできる物、及び、グループ対抗の物等）

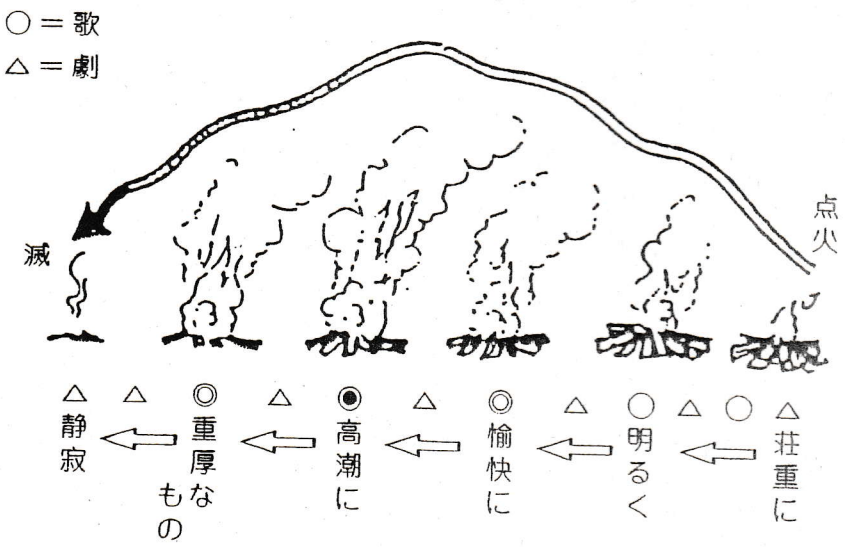
7．終りの儀式

「キャンプファイヤーの歌」「赤とんぼ」「一日の終り」「故郷の歌」等、静かな者を４曲くらい歌って全員の気持ちを落ち着ける。同時にファイヤーの火勢も衰えてくる。

8．終りの言葉

営火長はメンバーの胸の中に食い入るような感動的、印象的な話をする。

営火の調子のあり方



キャンプファイヤーについて学習してきましたが、ここで「スカウト野営と営火」・「営火の仕方」について、先人のご意見を掲載し学習材料の一端にさせていただきます。

スカウト野営と営火

中村　知

1．営火ということば

営火という日本語は、英語のＣａｍｐ　ｆｉｒｅの訳語である。詳しくは野営火であろう。誰が言いだしたのかわからないが、大正１４年初めて中央実修所が開かれたころから用いられて今日に至っている。ことによると、所長だった佐野常羽先生の創案かもしれない。

今日では、班営火だの隊営火だの大営火だのと言うことばが用いられている。いわばスカウト用語である。一般人のキャンプにも営火ということばが普及しているが、これはハイキングということばと同じように、スカウトがその元祖のようである。ただし、その内容においては一般人の営火は必ずしも同質とはいえない。ただことばだけの問題である。

2．野営と営火

野営すれば必ず営火をするものといわれている。営火のない野営は眼のない顔みたいだともいう。それほど営火というものは野営を意義づけるものであるからもし営火が失敗するならば、その野営のすべてがそこなわれてしまう。えいかげんではすまされない課題がある。

3．これまでの営火の反省

大正３年ごろ、わが国に初めてボーイスカウト隊の発生をみた当時は、野営といっても軍隊の携帯テント、または間に合わせのテントの野営で、営火がどの程度行われたかは疑問である。営火らしいものが伝来したのは１９２４年（大正１３年）の第２回世界ジャンボリーに参加して外国の営火を見て来て以後のことである。ここで注意すべきことは、ジャンボリーの大営火を初めて見た眼にはお祭り騒ぎに類するはでな営火が先入感となり、それがその後の日本での全国大会の

営火に反映されたこと、そしてそれが新隊の営火にまで影響したことであろう。したがって営火というものは、お祭り騒ぎの演出であるという通念が生まれた。

佐野先生はこの誤った通念を破ろうとして、中央実修所の営火では、むしろ厳粛なやり方をとられた。ある場合には演出中に中止を命ぜられたこともあった。大正１５年に地方実修所の制度ができてから、その営火は中央実修所の営火に範をとるので、佐野先生の意図を上まわる“わさび”のききかたで、しんみり固いものになった。まるでお通夜みたいな形だという人もあった。実修所でやることは何でも手本だというので、隊の営火もしぜんそうなって、おもしろくない営火になる傾向があった。その上、あるひとつの型ができ、その型とちがう営火は邪道だという人もあったりして、近年までその様相が残っている。

戦後アメリカのスカウティングが導入されるにおよんで、日本の営火の様相も一変した。たとえば点火のセレモニーが芝居がかりになったり、インディアンが登場しないと営火でないように思われたり、またよい意味で人をからかうようなスタンツがまじったりして幾分ショー化してきた。この傾向はテレビの影響だといわれ、他国のスカウト界でも問題になっている。

ここで反省したいことは ――――――

(1) ジャンボリーのような大会衆でする大営火と

(2) 実修所の営火と

(3) 少人数のスカウトのする営火（班営火、隊営火）

とは方法においてちがうということ。それはそのおのおのが営火を囲む目標が違うからである。これを区別しないで営火とはこんなものだ、これが正しい、ほかは邪道である ――― というように断定したり盲従した点に再考の余地があると思うのである。

このように営火の区別を知ることと同時に、その逆というか、営火の公分母、すなわち、ベーデン・パウエルの意図した営火の本質というものを考究することもまた必要である。

４．　Ｂ－Ｐの意図をさぐる

創始者Ｂ－Ｐ卿が意図した営火については、２～３ページに掲載されているので、何回も読み返し充分に吟味していただきたい。

5．　歌について

歌は、歌いたくなったとき、腹いっぱい歌うものである。みんなの音程がそろい、ほんとうに歌の気分がわいてくるのは歌の２番目から３番目にかけてからである。気分のわくのはこれから ――― というときに、ソングリーダーは、１番目だけで終わらせる。こういう例が、あまりにもしばしばあるのは困ったものである。　時としてその次の出番の班が劇の扮装に時間をかける、その時間のうめあわせに歌をいれたりする、その意図が目に見えるときなどは、歌がしぜんに歌えないのもむりはない。歌唱の本質を無視するものである。外国スカウトの例によると、単調なあまりよい歌でもなさそうな歌を、腹いっぱい何番も何番も続けて歌う。歌っているものはひとつもあきない。それは結局、ほんとうに歌が好きだからだろう。日本でこんなやり方をしたら、たぶんソングリーダーは首になるだろう。

6．　劇について

営火の劇というものは、一種独特な味がある。おそらく専門の役者でも知らないかも知れぬ。したがってよい劇の印象は後までも残り、楽しい思い出となる。

日本の営火で、ある時代、あまりにも劇にこりすぎたことがあった。いいかげんな演技も困るが、さりとてあまりにこりすぎるのも考えものである。

演技をする者の年令に応じることも必要である。中学生の年令のスカウトが、うさぎとかめとか桃太郎の劇をする例があるが、これなどはふざけているとしか思われない。

劇中に酒のみとか、泥棒とか、殺人などの場面を出すことは避けたい。うまければうまいほどよろしくない。

笑わせようとするのは、すればするほど本来のユーモアから遠ざかり、下品になる。

宗教団体などから抗議を申し込まれるような演出はさしひかえるべきである。総じて疑わしい題材は演じないほうがよい。

7．　スタンツについて

外国の営火はスタンツが多すぎるという評があるが、日本の営火ではもう少しあってもよいのではあるまいか？ことに動作を伴う歌や、軽い踊りなどはもう少

しほしいものである。手品のごときものもスタンツに属するかと思われるが、室内で主としてするものを、夜の野外でするのはいかがなものであろうか？

８．　夜話について

夜話こそ営火の本命である。すなわち、歌や劇やその他の番組にはいっていても、けっきょく営火とは総合されたひとつの夜話というべきであろう。Ｂ－Ｐはこれを暗示したようである。

けれども夜話ほどむずかしいものはない。訓示になったり、説教になったり、演説になったり、自慢話になったのでは落第である。インスピイレーションを与えることが夜話の本体である。

童話家だの話術の達者な人、かならずしも夜話のベテランではない。よい夜話のできる人こそ一流のスカウターであり、営火の名人だと言えよう。この点で、Ｂ－Ｐに学ぶべきものが大である。「スカウティング・フォア・ボーイズ」という本は全巻営火夜話の形で書かれているからである。

夜話は指導者の修得科目である
夜話の勉強の第１歩は広く読書することにある。書物だけでなく、日常の新聞雑誌のなかにも材料はいくらでもある。広く読み、深く考え、話の構想を十分に練り言葉をよく吟味し、タイミングとリズムをふりつけて自然な話し方でする。話をしているうちに、自分で何を話しているのかわからなくなったら、もうだめである。多少の脚色をつけたり、ユーモアを加えることは必要であろう。いつ、話を切るか、これも大切である。切りそこねて余韻を残しそこなったら苦しくなる。

Ｂ－Ｐによれば、夜話は神への導きであるという。少なくとも、「ちかい」・「おきて」を思い浮かばせるよう、ひらたくいえば、ヒューマニズムへの導入であろう。

夜話は営火の終わりにするのがよいとされている。けれどもこれをひとつの型にしたくない。

９．　営火に型はない

営火にひとつの型があると思うのはまちがいである。型破りの営火は邪道だというのもまちがいである。営火には、ひとつも型はない。

集まってから点火しようと、集まる前に点火しておこうとどっちでもよい。薪をやぐらに組もうと、スターファイヤー（放射形におく）にしようと自由である。かならずしも「遠き山に火はおちて」の合唱から始めねばならぬ規則もない。拍子木をコンとたたいたら歌で、コンコンとふたつたたいたら劇だときめた規約もない。それなのに全国いたるところ、一本調子の型になっているような現状はどうしたことであろうか？

１０．　火のたき方について

穴をほって薪き組、下から点火するならば、火の明かりはごく狭い周囲にしか及ばない。穴をほるのと反対に、少し土を盛り上げて土台を作り、その上に薪を井げたに組み、中によく火のつくものをさし込んで、上から点火すると明かりは広範囲に達する。こんな簡単なことを長年気づかずにいたのは、やはり型にはまったやり方を踏襲していたからであろう。

１１．　営火の場所の選定

営火の場は、きわめてたいせつである。テントや炊事場の近くで営火をするならば手近であるが、気分的におもしろくない。少なくともテントから１０メートルくらい離れた別のところがよい。炊事場でするのはいちばんよくない。できれば、立木にかこまれた土地で、上をあおげば立木のこずえの輪の中に夜空が星をちりばめてあらわれるような場所。神秘とか幽玄とかいうことばを思い浮かべるような環境 ——— これが望ましい。

１２．　規律を忘れず

営火長が入場したら、号令がなくても全員起立して迎え、営火長が着席してから各自着席するよう。

営火中、成人は煙草をすうことを遠慮する。終わるときは全員起立して営火長を見送った後、静かに解散する。

これは型ではなく、おきて第5（現行おきて第3）の実践である。

１３．青年と成人の営火

青年スカウトだけの営火だの、指導者だけの営火の場合は、時として煙草を許すこともあろうけれども酒をのんでもよいという営火は世界中聞いたことがない。この年令になれば、番組なしの営火だってありうる。非常にくつろいだ、なごやかななかに「ちかい」「おきて」の香り、すなわちスカウトの香気がみなぎるものである。少年スカウトの営火は、この段階にいたる一里塚の営火であり、年長スカウトの営火は、いわば半里塚の営火だといえよう。

１４．結　語

そもそも営火は、野営生活の１日の労を慰めるとともに、団欒の喜びをもつためのものである。火を囲むということは、人類のみの特権であるから、人類が火を作る発見をしてからこのかた、くりかえされる行事である。火によって食物を調理して肉体を養い、火によって暖をとって肉体を寒冷から守るとともに、火によって精神を浄化し、人類である幸福を悦び、その感謝報恩の念を焚いて神仏に捧げるという素朴ないとなみを、Ｂ－Ｐは巧みにスカウティングにとり入れたのである。人類が人類の永続をはかる道、すなわちヒューマニズムの磨き ――― これを営火について考えるのである。

営　火　の　仕　方

吉川　哲雄

1．営火を待つ心

すべての星は私の身内に輝くように感じた

タゴール

待ちに待ったキャンプの夜が来た。木の葉がさやさやと涼しくささやくごとにテントの中も木の間もうす暗く、人声も急に静まった。夕闇が迫って来るのだ。

空には青い燈を捧げるように、キラリ、キラリと星が輝き始めた。

とうとう夜になったなーーーー。

と思うと、テントの中のランタンに灯がついた。美しい人の影絵、

友の顔の何と気高く、生々と見えることよ。

暗くなったぞ。

営火がもうはじまるだろう。

あちらのほうでにぎやかな歌声が起こる。それを聞くと

変に胸がどきどきする。

今夜の営火はどんなだろう、早くやってくれないかな、

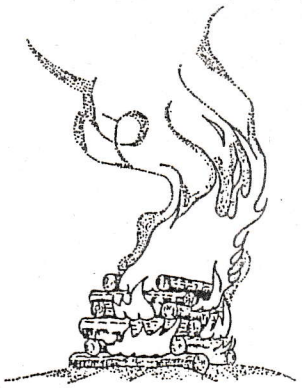
たまらないな。 ……

この営火を待つ気持ちぐらいうれしいことはありませんね。まだ見たこともない森の中の赤い火、パアッと明るく映っている火、さも愉快そうに歌ってゆくにいさんたち、今にみんな一つの火のぐるりに集まるのだと思うと眼の中が熱くなるほどなつかしい気持ちがしますね。

楽しいキャンプファイヤー！

キャンプ生活の命！

私はこれからそのお話をいたしましょうね。



2．　火

火！

何万年の昔から、人間はこの火をどんなにあこがれたことでありましょう。人間の手で火を焚くことのできた時、その燃え上がる炎を眺めてどんなに、私たち

の遠い遠い先祖の人々は喜んだでありましょう。その喜びは今でも私たちの血の中に波打っているのです。

燃える火をじっと見つめて下さい。いつの間にかほほは赤くなり、息も荒く、おどり上がりたい気持ちになります。火はこうして私たちの身体を暖めるばかりでなく、心までわき立たせるふしぎな力があります。

かぐわしいみかんの実る南国紀伊の国の高野の山には、千年の昔、開山のお大師さまの燃した火が今も消えずに赤々と燃えつづけています。こんな話を聞くとなお神々しさをおぼえますね。

カチリとひうち石の火花の飛ぶ美しさ、松の木をすり合わせていると。白い煙といっしょに燃える火の清らかさ、シュッとすってあたりを明るく照らし、燃え細り、頭重たげに消え落ちるマッチの火、万葉歌人が歌う野火の赤さ、切り火、お盆の精霊様の火、鎮守の祭りのかがり火、夜陣の火、といっただけでも走馬灯のように次から次へと美しい炎が心の中に、ゆらゆらと燃え上がって来るでしょう。

人間は遠い昔にこの美しい火を自由にすることができました。そして火を使って人間の生活にいり用の物を次から次へと作り出し、人間だけが、地上で他の動物の中で一番進んだ文化を持つようになりました。そしてすべての物を征服しようとして、人間の限りない望みは常に新しい発見、発明をつづけています。

しかし、こん不思議な火は、小さな美しい光を与えてくれると一緒に、燃え上がる炎は恐ろしい力となって、生きるものすべてを焼き尽くさねばやまないすごさを持っています。大きい火は人間へ戦いを挑んで来ます。ある時は人間はその前にまったく力ない弱い者として滅ぼされてしまいます。

私たちの焚く火は、よくよく火のほんとの性質を知って、その美しさ、その炎の持つ暖かさを喜びの心を持って燃すべきです。

美しいものはどこまでも、美しくこれを眺め、私たちに便利を与えてくれるものは、上手にこれを使うのがほんとのスカウトの気持ちです。

無駄なこと、不注意なこと、いいかげんないたずら心で火を取り扱ってはなりません。

風もない時、すうっと燃え上がる火を見ているとだれでも神聖な気持ちになりますね、神前の燈、み仏に捧げる淡い光は身も心も清めずにはおきません。

私たちスカウトは聖なる火を燃して、お互いの心を、兄弟心を暖め合いましょう。

キャンプファイヤーはこうした心の清めの火であります。

3．夜のヴェール

あたりがうす暗くなって、月もまだ出ぬ暮れ闇のころ、キャンプで一番心持ちの落ち着く時です。楽しい夕食をすませて、おなかもゆったりふくれているし、昼まの疲れが軽く全身に流れて、身体がすうっとたけのこのように伸びる気持ちがします。

昼と夜とのスイッチの切りかえ時、激しい活動と安らか眠りとの移り変わり目に、この快い夕闇の休み時間がきます。

お話もちょっと種切れだ、鍋も食器もかたずいた、みんなの幸福そうな顔が並んでいる。

心が落ち着いて来るに従って暗くなったあたりを見ますと、だれでもきっと今自分のいる野営地がこんなにも美しいところであったかとはっと気がつきます。

昼間見おぼえの木がまるで黒い闇をその枝葉から吹き出すかのように、一刻一刻暗くなって夜のヴェールは地上をおおってしまいます。

月の出の淡い光が空に漂うころ、星がパチリと目をさますころの野営地は、夢にも見たことのない、きれいな土地になります。

ランタンに燈を入れると、光のまるい輪が土の上に描かれる。テントがたまらなく暖かそうに見える。うすら光に照らされた木の幹、揺れる木の葉もほどよく見えて、なんとも言えない美しい情景が描き出される。

絵のへたな人も、詩の作れない人で、どんな人でも、この夜のキャンプを見て絵心を作れなくても、詩の心をわき立たせない人はありません。

「いいな ――――――」

と思わず叫ばずにはいられなくなります。

夜はこうして、あたりをすっかり包んでしまって、いつまでも心の中に忘れられない景色を見せてくれます。

静かに静かに夜のキャンプを眺めてください。それは神様がスカウトにそっと見せてくださいます美しい絵ですから。

4．営火のまるい輪

スカウトのキャンプで大切なのはこの営火です。それは昼まの愉快なスカウト作業の後に、涼しい音楽でも聞くようにみんなの心を楽しませて、キャンプをもう一層楽しかったと感じさせるからです。

そして後になって眼を閉じてみても、赤く燃ゆる火とその夜の思いでが、いつどこにいても、昔のままに、いやそれよりももっと美しくよみがえってくるからです。そして、その時にお互いの心の中にわき上がった暖かい心、火のパチパチと燃ゆる響きを伴奏にして、いつのほどにか生まれた、仲よく楽しい兄弟の心持ちがしっかり結ばれるからです。

友情

人を愛する心持ち

お互いに兄弟だという自覚

それが生まれ出るには、お互いの手をとり、心と心を近づける、少しのすきもないようにぴったりと結び合って、中心の火に心を暖めるには、どうしても、まるいまるい輪を作って、お互い結び合った鎖の一つの環となって、火を取り巻くまるい輪の形に座を占めずにはいられません。

ですから営火が大きくとも小さくとも、必ず火を中心に円座を作るわけは、こうした兄弟の親しみの情が自然にあらわれてできたものです。

そして、この輪の中の一つの環となることのできる人はなんという幸福でしょう。その人は僕たちの仲間の人か、少なくともスカウトの心をもった人であるべきです。ですからスカウトの営火に招かれて、この円座の中に加わることは、お互いの心を同じくした世界に仲間入りすることです。

これに加われる人はキャンプへ来られたお客様の中で一番幸福な人で、野営の最上のもてなしですから、名誉なことです。またスカウトのこの友愛の輪へ暖かい心の方が加わられることは僕たちの光栄です。

営火は見せ物ではありませんから、ほんとうのことを言いまと、見物人が大勢あるのはお互いの気分も散って迷惑です。

それでできるだけ、山や森の静かな所を選ぶ心持ちもこのことを考えるとよくわかると思います。しかし時と場合とによって、見物人がある時には、見物人はどこまでも見る人ですから、営火をするわれわれの妨げをしないように静かに見ていただくようすればほんとうのスカウトの営火の気持ちがよくわかってもらえます。

そして団から招かれた少数の方々だけは、この円座の中に加わって、ともに楽しんでいただくようにはっきりと初めから決めるほうが、お互いに気持ちよくできます。

5．営火の種類

（イ）　班　営　火

班長が、隊長の許しを受けて、班だけで野営に行く、その時の自分の班ばかりの、ほんとの水入らずの営火は、お互いがしんみり話し合い、班長が営火長となって、歌に劇に話に班員が遠慮なく溶け合い、班の精神を作る時です。

（ロ）　団　営　火

夏休みなどに団の者みなが集まってする営火は、各班がお互いに自分の班の最もいいところを示し合って、そして団委員長や隊長のお話がよく響く団として気分のしっくり合う大切な時です。

（ハ）　巡　歴　の　夜　の　営　火

スカウト作業に熟練したスカウトがただ一人で、あるいは二人づれ、三人づれで、軽いハイクテントを背負って山野を放浪し、なにものにもとらえられない自由にあこがれ、旅より旅への巡歴の夜の小さな営火は、スカウト作業の仕上げであり、この時ほど深く自然の中に身をひそませる時はありません。

（ニ）　連　合　団　の　営　火

地方の連合団、近所の団との連合、外国スカウト歓迎の営火は、お互いの親しみの中に、大きいスカウトの兄弟心を、目の前に見ることができ、スカウトらしいきびきびした礼儀と規律の中に、楽しく励み合い、良い点、すぐれた点を学び温められた友情は、スカウトの団結を強めるとともに、僕たち仲間がかなたにも、こなたにもいることを知り、信頼と力強さを覚えます。

まして全世界のスカウトの集まるジャンボリーの営火は世界の兄弟心を養います。

6．営火場

野営地を定める時にまず国旗掲揚の広場とともに営火場を決定しなければなりません。この２つの場所はともに野営地での神聖な場所です。なぜならばそれは心を養う場所であるからです。

営火場をどうして選ぶかと言いますと、まず野営地の地勢から見て、できるならば国旗の広場と、営火場を別にするほうがよろしい。

国旗の広場は朝の厳粛な行場です。営火場は夜の楽しい行場です。しかし地形上いたしかたのない場合には両方とも同じ場所に定めて、常に当番班が清らかに手入れをしておきます。

営火場としては、お互いの気持ちがしっくり落ち着くためには、ほどよく木立ちがあり、あるいは山お狭間か、小さな窪地のような、こじんまりと落ちつくところで、営火の人数がだいたい円座して入り得る空地が理想的です。そしてできるならば野営地の偵察の時に、夜の営火場の感じを現地で調べてもらえば何よりです。その時、営火の中心である火床の位置と、周囲の地形から見て、その営火場の上の座を営火長の席を作るために考えておき、それぞれちょっと木の枝ででもサインをしておくことは斥候らしい気持ちのよいあらわれです。

しかし、平坦な地で、なんの変化のないところでは仕方ありませんから、1本の木でも、一つの草むらでも繁みでも、営火長の席の背景に定めておくのはいい工夫です。なおその座席になにか付近の木とか石などで座席の作り得るものがあるか、それとも、さんだわらあるいは筵、防水布などを敷くかについては、前から考えておかねばなりません。湿地はよくありません。

少しの工夫で営火長や幹部の方の椅子になるものを設備するものも、当番班の作業です。木の切株、丸太、石、さんだわらなどは座席に用いてよいものです。

7．火床

営火の中心は、燃ゆる火にあります。それは若者の心にも似た情熱を感じます。暗い夜空に光を与えます。集まる者に暖か味を与えます。

その大切な火床は、前にも言いましたように、営火場の中心に設けます。ただ火を焚くだけの場所であるけれども、もしそこが草原でありますならば、草の根に土のからみついたままで、少し切り取り窪地を作り、草のかたまりは一方に置いて、営火が終わり、火も消してしまってから、草と土は前のように置いて、この土地を荒らさぬ用意が必要です。そして真ん中に窪みを作りますと、それをとり巻いて、石ころを円形にあるいは方形に並べて縁どりをするか、或いは相当太い木をもって、四角に木のわくを組み、火床の位置をはっきり定めます。

営火の席が、円座でありますから、この火床はその中心の位置を定め、営火長の席は、その円周上に上席をきめることです。こうして自然に営火のきまりがつきます。　スカウトの生活にはいつも自然な規律がいります。

８．　営火の係

営火を楽しくするには、営火に参加するスカウトのすべてが協同す心持ちがなくては、うまくできません。そしてこの営火を規律正しくするには次の４つの係が必要です。

第１は営火長です。その野営の一番長上の方がなります。そして営火の総指揮であり、すべてのスカウトは営火長の指揮をよく守って立派に営火を仕上げなければなりません。営火長がどっしり落ちついていて、そして、ほがらかな気持ちで指図をすると、営火長の気分がすべてのスカウトに響きます。

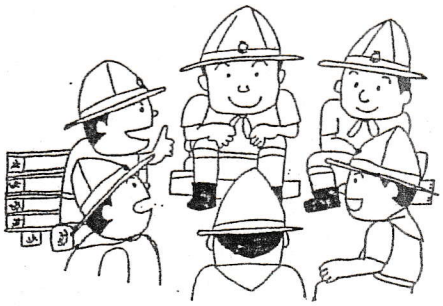
第２はエールマスターです。営火長がどっしりと落ちついた山であれば、この係は山より出でて流れる川のように、歌のじょうずなエールのうまい、そして全体の者の気持ちを察する敏感さと、音楽の巧みな指揮法、軽快な動作の人がこの係になります。ある時は山間の急流のように、激しい元気のある指揮をします。またある時には平原を流れる川のようにゆるやかに歌も歌えるというふうに、営火長と全員の気分を無言のうちに察して営火を指揮する人です。

第３はプログラム係、これはたいていの時は当番班長がなります。この係は営火の３０分前ぐらいまでに、各班から、営火の出しものの申し出を集めて、その性質をよく案配して営火のプログラムを作り、営火長に提出します。営火の時に出演者の種目と班名をアナウンスすることもあります。

第４は焚火係（ファイアー・キーパー）です。これは当番班がすることもありまた特に老練なスカウトを指名してこの係にすることもあります。その理由は営火の焚き方は、営火の気分によって強くも弱くも焚かねばならないからです。

日の暮れる前に営火に十分な薪を集め、１カ所に整頓し、火床の湿りのないようにし、火のよく燃えつくように用意をし、まんいち燃えないと困りますから小さなローソクを用意しているなど、細かい注意が大切です。また、火を消すためにシャベル及び水の用意をし、最後にはこの係の者は、完全に火種の無くなるまで消す責任があります。

このエールマスター、プログラム係、焚火係の３つの係が営火長の心持ちのままに、よくその気持ちを察して営火を巧みに動かしてゆくのです。大きい営火ではもちろん、営火長の他に副営火長が必要です。



9．営火の気分

営火の気分！

これが営火にはなにより大切なことです。これはそこに集まったスカウトが、ほんとうのスカウトである修行がよく積めていればいるほど、しんみりとした親しさと火のような元気と、ほがらかな笑いのわき出る洗練された演技と涼しい歌声が生まれ出ます。

営火は生き生きとしたスカウトの心持ちの流れですから、自然とリズムを打っています。ちょうど歌のようにある時は高く、ある時は低く、しかし全体としてその夜の営火独特の一つの気持ちが流れています。また能楽の演出にむずかしいきまりがありますが、しかしそのためにキチンとして乱されず、よい心持ちで終わるようにやりたいものです。

営火のだいたいのリズムを言いますと、

静（せい）　**動**（どう）　**静**（せい）

という形です。始めは静かに始めて、中ほどではうんと元気よく、おもしろく、おかしく、さて終わりには、また静かに営火を終わるというやり方です。

しかし演出のプログラムによってこの中にもまた静、動の小さな変化が生まれます。そこで、プログラムを作る係が、静かな歌のあとには、にぎやかな劇を入れるとか、少し騒ぎすぎると思われると次にはお話を入れて落ちつかせるというふうに工夫が必要です。

またエールマスターがどうしてもプログラムのままでは気がでないとか、あるいは少し乱れそうになるとか感じますと、すぐ臨時にそれぞれにぎやかな歌とか、また静かな口笛を入れるとかの工夫もできます。そしてグングン気分があがって来たのを、しだいに静かに落ちつかせて、最後には咳一つもれないくらいに静かに静かに火の消えてゆくのを見ながら眺めるほどの緊張に導き入れ、そして別れを告げるというふうにするのが最もよろしい。ですからエールマスターは音楽の気分をつかんでいくと、この営火のリズムを上手に導いてゆくことができます。

それですから焚火係も、皆の元気が高まれば、火をさかんに燃やし、静かに落ちつく時は、薪を加えるのを少なくするか、あるいは一時中止して火勢の静まるのを待ちます。始めのうちこそ火の燃える勢いと、全員の気合とが会いませんけれども、しばらくエールマスターに導かれているうちには、火と人の気合とがうまく合うものです。こうなってくると営火はますます面白さが増して来ます。

最後の静かに納めるというのは、あまり元気にまかせてやりすぎますとどうしても乱れて来ます。乱れた営火はスカウトの営火では有りません。またスカウト

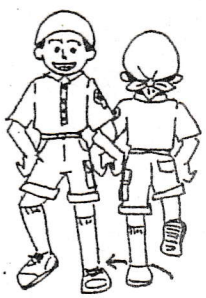
は常に自ら自分の身体を引き締め得るのでなければなりませんから、うんと調子をあげっぱなして営火を終わりますと、野営で大切な夜の睡眠時間を狂わせます。消灯の角笛が鳴っても、まだ覚めきらぬ乱調子から、話をしたり、歌を歌い続けたりするようになります。こうなっては自分のためにも人のためにもよくはありません。それでどんなに愉快でおもしろく油が乗ってきても、終わりには静かに落ちついて営火を終わるようにしたいものです。

なにごとにも8分目というのが一番味の多いところです。営火ももう少し騒ぎたいという9分ぐらいまで行って少し希望を残して終わることは次の営火を楽しくします。営火はその楽しみを味わうことが大切です。

１０．プログラムの作り方

静かなうちにも喜びが満ちている。にぎやかな騒ぎの次には、カッキリ静けさが流れ出る。そんな気合の満ちた全員の心持ちの緊張し切った営火は、すぐれた音楽を聞くようです。そして音楽の時よりもっと生きている力が感ぜられます。

そのプログラムをいかに定めるか、それはまず当番班長の苦心すべき点で、各班から申し出の演技の種目と、それがどんなことをやるのか、何分かかるか準備の都合をだいたい尋ね知っておくことが必要です。そして優れたものを終わりのほうに置くのは誰も感ずることでしょう。しかし、最初の切り出しはよほど注意が必要です。最初にピタッと全員の気合いが合うと、その営火は非常にやりやすくなります。それには時間を厳守して、全員が待ちかねるほどの熱があり、営火長はじめ一同着席し、そしてプログラムの第一はどうしてもみなの気分のあうようなもの、歌の合唱とか、場合によっては「おきて」の朗唱もよろしい。そして歌の次には何か動きのあるもの、例えば劇とか、ものまねとか対話のようなものをおき、少し堅くなるかと思われる時には、また歌を交えるように組立て、最後になるにつれて次第に優れた演技を入れるよう考えるべきです。もちろん営火の演技は2分あるいは3分程度のもので、5分以上というのはよほど特別の場合の他は、演出しても見るほうで疲れます。それで時間の事もじゅうぶん考慮して、営火全体に要する時間も1時間ないし1時間半程度が最もよろしい。そして進行にむだな時間のないようにするのは、エールマスターの指揮と、アナウンスの敏活と出演者の準備の周到さとによります。



プログラムを一度定めるとまったく動きのつかぬものであると考えては困りま

す。準備の都合や、思いがけぬ事情のため多少の変更は起こって来ます。そんなときに隙のないように努めます。そして営火全体の気合の上から、エールマスターが歌を合唱したり、輪唱したり、全員でエールをやったり、簡単なゲームをしたり、みないっせいに、律動運動をしたり、舞踊を入れるなどいろいろの工夫が加えられますからこれも考えの中に入れておいて行なうと息もつけぬように次々とすらすら演技が続いて実に気持ちのよいものです。

１１．演技

どんな出し物をしようかと、営火の時にはいつも班員が額を集めて考えますね。演技は班を単位にしてするものであることを忘れないでください。だれか素敵に上手なハーモニカの独奏をしたとしても、それは班を代表して出ているのです。

また団がいくつも連合してする場合には、団が単位になります。もちろん団にいくつも隊があります時はその隊を代表するものです。それから演技は見せよう、聞かせようとばかり考えてしますと、せっかくの演技もいやしくなります。自分の班の班員が皆よってするということを根本に考えておいて下さい。そして班員一人一人それぞれ得意の点があるものです。歌がうまいとか、お話がうまいとか、まねがとても上手だとか、なんにもできないけれどパンのようにふとってにこにこしているとか、それぞれ生まれつきいい所をもっています。それでそれらのいい所を集めて、皆で協同のものを作り出すところに営火の演技としてよくやったなというスカウトらしい感動が起こるのです。それが普通の余興会と少し違っているところです。

次に演ずる題材を町中の生活にとるよりは、できるだけ自然の生活のものをとってほしいことです。せっかく山や森へ来ているのですから、モダンボーイの出る演技よりは熊やたぬきの出るもののほうがおもしろく思われます。また仮装するにしても、そこらにありあわせのものを利用して、ちょっと手軽に形だけつけて「……になったつもり」であとは動作や言葉で表せばよろしい。昔の武士道物語とか、伝説をやってみるとかすると、ほんとうにぴったりその場に合うことがあります。営火では今までたびたびいうように歌は大変重く用いられます。それもすてきにうまく歌わねばならぬと思うと堅くなって歌えなくなりますから、楽に歌うようにすればよろしい。班で歌を１０曲正しく歌えるようになっていますと、営火は大変にぎやかになります。それも歌い慣れた歌、皆の知っている歌であってよろしいのです。新曲ばかりあせらないでよろしい、そしていい歌は皆に愛されいつまでもだれにでも歌われるものです。いい歌は何度繰り返してもい

いものです。また全員が合唱するくらい気持ちのいいことは有りません。

森の小鳥のように朗らかな歌の歌えるよう練習していてください。黙った唖のスカウトのようなのが営火の輪のどこかにいると、まるで歯が抜けているようで気勢が上がりません。スカウトソングだけは練習しておいてください。歌と一緒に営火に用いられる楽器として、子どもらしい楽器がよいように思われます。平素吹き慣れている、ハーモニカとか笛とかオカリナとか弦のある楽器ではウクレレなどもよく合います。楽器とは言えないかも知れませんが、笹笛、麦笛もなつかしい音を立てます。その他使い方によっては鍋のような炊事道具も面白さが有ります。声楽の進んでいるスカウトでありますれば、ドイツのスカウトのようにギターを伴奏にして歌うこともできれば試みたいものです。しかし、何といっても声楽はのど一つで歌えるのですから、一番はいりやすくて、やればいくらでも深味のあるものです。寸劇、無言劇、対話も、よくまとまっているのはやる人にも、見る人にも愉快です。

次にお話ですが、営火夜話と申しまして火をとろとろと燃しながらお話を聞くぐらい楽しいことは有りません。営火夜話として英雄伝、冒険談、童話など、特にわれわれの先祖のすぐれた物語を聞きますと、自分もその昔の山や野に駆け回っている人のような気持ちになります。また、団委員長や営火に招かれたお客様から、奮闘実話や自ら感激したお話や、自分のやってみた猟の話のような実話は、其れを試みたご本人から聞くだけに熱がわいて来て、深い感激に打たれるものです。営火夜話は、簡単に力強く、むやみに長く伸びるのは退屈しますから、一言一言胸に迫るような誠実のあふれたお話は最も適しています。

物まねも、思わず笑わせられます。動物の鳴声の競争も場所が場所ですからよく合います。全員が楽しめるようなゲームもよろしい。

しかしお互いにいかに上手にやろうかと工夫をこらしてするのはよろしいが、決して他の班とむやみに競争してせり合うためにするのでは有りません。兄弟らしい気持ちで、お互いの良いところを見せ合い、見合って励むのです。上手へたを決定するのでは有りません。

楽しむのであることを忘れないでください。

１２．服　装

営火にはどんな服装がよいかを話しましょう。いったい野営の時は、半ズボン一つで、なるべく日光浴をして、真黒になるほうがよいのであります。生白いスカウトなんか見ても強そうではありません。ただ、特に隊長から命ぜられた時と

か、野営地外へハイキングや伝令などで出かける時は正装しなければなりません。それですから、営火のときの服装は自由でありますが、野外の夜は何といっても涼しいからこの注意がいります。あまり見苦しい服装さえしなければいいのです。ネッカチーフを頭に巻き付けたり、毛布をかぶって出て来たりすると、山賊の群か、山の修行僧かと思われます。これらもいっそう営火の気分をおもしろくします。また平素丹精した手作りのインデアンの外套なんか着て出るのも自慢でも有り愉快です。

１３．営火の作法

営火のお行儀を少し話しましょう。これはスカウトの礼儀正しい、規律のあることを示す機会ですから話してみましょう。

営火の時間を厳守して、その時刻より５分前ぐらいに営火場に行き、それぞれ係の指図を受けて定まった席に着くこと、よく準備に追われたり、夕食の後始末のためおくれたりします。これはぜひ定刻までに行って、着席していなければなりません。当夜の指揮者は営火長でありますから。定刻になって営火長が来られましたら、営火長ならびに営火長の案内して来られる来賓に敬意を表します。

次の副野営長あるいはプログラム係から出演を呼ばれますと、ただちに活発に出演の準備をして元気よくやります。見ている者は静粛に、お互いに熱心に演技を見ます。決して途中で批判したり、うまいとかへただとか私語するのはスカウトらしくありません。もちろんやじったりすることは禁ぜられています。もし、演技がへたでも、やる人々の努力を見てあげてください。もし非常に上手であれば、そのすぐれたところをよく見てください。あまり軽はずみに、むやみに拍手したりしますと、せっかくやっているほうの人々の心持ちをかき乱したりします。

拍手は野球の応援では有りませんから、思わず拍手をしたくなった時は「急峻のように」というように強いが短い拍手にして、スカウトの眼を開いて見ることに気をつけてください。スカウトの集まりですから、「おきて」を朗唱する場合には、ただちに起立して、謹しむ心を忘れないでください。国歌を合唱する場合も同様であります。この時、服装はそのままでも敬意を失わないようにしましょう。営火の終わりは必ず厳粛な気分で終わるものであることを心得ていて下さい。どんなに面白く思っても終わりになりますと、落ちついて静かに楽しい営火を終わる気分になってください。その営火が愉快であればあるほど、終わりをきれいにして、美しい思い出を残しましょう。

演技の途中は営火長とエールマスターによく注意し、一つ心になって楽しむの

です。自分の演出する時は元気よく力一杯で「最善」を尽くすのがスカウトです。最後には「お休みなさい」とお互いにあいさつを交わして、自分のテントに帰り消灯の角笛がなりましたら、どんなことがあっても、ただちに黙って眠りにつくようにしてください。

１４．儀　式

営火に何か儀式を入れる試みはアメリカなどでは、インデアンの点火式をするようです。一般には特別に儀式めいたことはしません。営火は営火長の挨拶により開かれ、最後に営火長の訓示、挨拶により終わります。

ただ、我々スカウトは、いつ、いかなる場合でも「ちかい」を忘れてはなりません。それでつつしんで、国歌を合唱して君国を思い、静かに黙想して我が身にふりそそがれしご恩の深さを思い、消えようとする火を前にして、静かに自分の心一つを澄み清めて、神仏の御心を感じなければなりません。

これ以外に点火の時、あるいは営火の終わりにその時々に応じ簡単な儀式をせられることは隊長および全員の心持ちしだいであります。たとえば、明日は海山遠く互いに別れ行くというような別離の営火では、最後にお互いの手と手を堅く握り合って、別れの歌を合唱するなどは、思わず涙がほほをぬらすことがありました。楽しい営火のできました原因を静かに考えますならば、常に感謝の心を持ち、それに平素の実行が伴わなければなりません。

１５．飲み物、食べ物

営火の時に何か飲み物や、食べ物を出すかどうか。これは班、或いは団だけのように最も親しい間柄だけでやる場合に、営火の途中でちょっと何か食べたり、飲んだりすることが大変嬉しく、気分をさわやかにすることがあります。年少隊の営火などでは何か与えたほうがよろしい。

大きい営火では、そんなことをしておれませんから出さないのが普通です。しかし営火を終わりますと、喉を乾かせたり、食欲の盛んな連中は、火の燃えるのを見ていただけでも、腹がすく方もありますから、各班の炊事当番の夕食の残り火を巧みに利用して、お茶をわかせておくなり、ごく少量の食物を工夫しておくなど、なかなか頭のいいところを見せてください。

１６．あとしまつ

営火が終わり、それぞれ愉快にテントへ引き上げますと、焚火係は、火床の残りの燃え木をかき広げて、充分燃えさせます。そののち、火種が少しもないよう水を打ち、よく集めて埋めてしまい、火気の全くなくなるのを見届けてから引き上げます。

この残り火を燃している何分間かは、よく指導者達の会議や愉快なお話をし合う時間となります。実際営火の終わった後の数分間はいい機会です。

１７．雨の営火

キャンプに来て期待していた営火が、雨の為に中止になった時は、ほんとうにガッカリします。失望したからと言ってテントの中でゴロゴロ横になっても眠るには早く、眼がさえてなりません。

こんな困ったときでも、口笛を吹いてニッコリ笑って面白い工夫の出来るようになりたいものですね。

こんな方法もあります。それはテントの中で他の班の人を招待して、ランタンを営火の火の心持ちでテント内の営火をするのも面白いことです。一つのテントに２コ班はいれぬというのであれば、班が半分に分かれてお互いに交じり合ってはいると、これまた一つのおもしろさがあります。なんでも工夫が第一です。

１８．室内営火

野営季節も終わった晩秋から冬の夜、夏のキャンプの楽しさを忘れかねているころには、室内営火がふさわしい。室内に丸太のわくを組み火床をよろしく作り、枯枝や薪を積み重ね、電燈のコードを長く引っ張って来て、電球一個を、赤い布をかぶせて、火床の下にしのばせ、スイッチをひねれば、ぽっと赤く営火場ができるといいう仕組みは、そのころの夜の集会を充分に楽しませる。お互いに営火の心持ちで営火長以下の係も作り、狭いけれど室内営火はまた別の親しみを感じさせます。

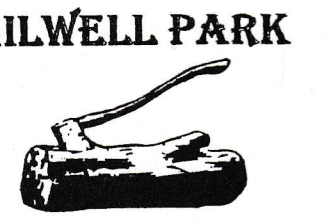
１９．ギルウェルの営火場

英国ロンドン郊外のギルウェル実修所の営火場は、スカウト野営地の片隅　樫の木の繁みに包まれた一角で、常設の営火場です。その入口には、奇怪な絵文字を刻みつけた、クジイウニイクの門が作られてあります。

営火場内には、太い材木をもって火床のわくを組み、これを囲んで木材がまるく座席を作り、その外まわりは、土を小高く盛り上げて、集まる者の多い時の用意がしてあります。正面にはエピングの森の鹿の頭骨を飾ったトーテムポールがあり、その根もとには健康をあらわす蛇が巻き上がっているみごとな彫刻があります。　この広からぬ営火場はイギリスのスカウトばかりでなく、殆ど全世界のスカウトが訪れては営火を楽しんでいます。

火床から振り返っていると、かの入口の門柱の横木には、強く強く短い文字が刻まれていました。私は近寄って、よくよく判じ読みますと、そこにはこんな文句が刻まれています。

よき火はまどいを暖むるがごとく
われらの理想はこの世界を暖めん



キャンプの夜
キャンプの静かな夜が来た
星は青くまたたく
テントの灯影は淡い
さぁ兄弟たち
かがり火を焚こうではないか

これはスカウトのキャンプで、毎夜のようにすらすらと滲み出る感情の流れです。これは決して策略でもなく、またスカウト訓練の慣習的な儀礼でもありません。神秘な夜の黒いヴェールに包まれる時、多感な少年青年たちは、じっとお互いの心を近づけようとするのです。そして原始の人々が長い夜を守ために赤い火を焚いたように、もしスカウトがほんとうに、大自然に素直に随順して行く生活をしますとき、われわれの血のうちに沸き立つ、祖先の強いあこがれが、この篝火となって表現されるのではあるまいか。

潮のようにわき出る力－－－－－

これを逃してはボーイスカウトの教育はできません。ひしひしと迫る夜の力にスカウト達はお互いにしっかり手を握りたくなるのです。また、赤いさかんな火のまわりに、黙っていても、円陣を作りたくなるのです。なお、この夜の魅力を

われわれは見逃していいでしょうか。

われわれは術や手段で、スカウト達がよろこぶ事を恥じます。そして、反対に自然の持つ大きい力－－啓示の－－中に身を投げ出さねばならないと思います。より素直な、謙虚な心で暮らすとき、この教育法のみの持つ特異な効果があらわれます。

原始の昔、われわれの祖先達は、火を得るためにどれほどの苦しみをしたことでしょう。それを自由に燃し得た時のよろこびはどんなでしょう。私達のキャンプファイヤーもしみじみこの祖先の心持ちからつつましい心持ちで、火を焚こうではありませんか。兄弟達の気分がぴったり合っています時、このつつましい心を表すにふさわしい、素朴な儀式が作り出されます。

．さらに赤々と闇空に燃え上がる火は「青春の歓喜」そのものの象徴では有りませんか。パチパチと燃える音を聞いていてさえ、われわれの鼓動はあらくなるではありませんか。火を凝視するスカウト達の姿をみると、火は力強くスカウト達の魂を吸いつけているということができます。即ち多くの魂が、この中心の火に確実に握られているために、ここに合唱が生まれ、篝火の物語が耳底にいつまでもなつかしく残り、篝火のチーフの声が凛と響くのです。

さかんな火は力の醱酵素です。ここに無踏が生まれ、エールが、笑が爆発し、その刹那、われもなく、兄弟の心はぴったりとけ合うのです。

ここに単純な、ちから強い、自由な、スカウトの芸術を生む母胎となるのです。まことに心の響き合った騒ぎのないキャンプファイヤーは寂しいものです。しかしまた、葉末のおののきをも、星の静かな歩みをも感じられるほどの静寂さの無いのはより寂しいものです。キャンプファイヤーは決して、冷やかな計画どうりのものであってはならぬ。火と篝火のチーフと、スカウト達と、この三つの気分によって醸成される力の流れです。ここにチーフの苦心が必要なのです。迫り来るこの気分を洞察し、それをより良きものにするところに、指導者の鋭い目が必要です。

キャンプファイヤーは真似の出来ぬものです。それはお互いの素肌の心持ちがでるからです。なんらの飾りなき生地そのままがでる時であるからです。

真に深い精進がいることがわかります。深い信念なくして、どうして篝火の集いに流れる宗教味を強められるでしょうか。騒ぎ、静寂の後にかっきり来る祈りたい心持ち、天地の霊に感謝したい心持ちを深めるのは、篝火のチーフの信念ではありませんか。

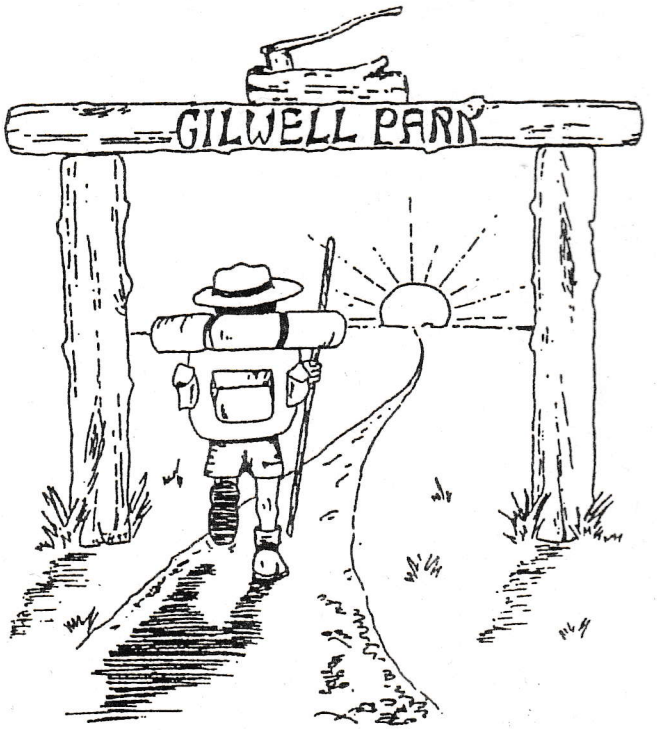
私はキャンプファイヤーはどこまでも聖なる火であってほしいと思います。

はなやかな篝火の集い、これがキャンプの夜のすべてではありません。テントに降りそそぐ雨の音を聞く夜、ろうそくの灯影に浮かぶ兄弟の目には、どんなにかしみじみとした懐かしさを持つことでしょう。あるいはうちとけた、小さい仲間の篝火は、巡歴の夜のスカウトの焚く火は、いかばかり静かに天地の寂しさを味わえることでしょう。

私は望みます。どうかキャンプの夜の神秘にその身を沈めてください。昼・夜・明・暗の宇宙のリズムそのままに生活する事が、ほんとうのキャンパーの生活であると信じます。単純な生活、大いなる力に信頼しきった、スカウトのような生活は、まさにキャンプの夜にあると思います。

私たちはまきちる星空の下に眠りましょう。私たちは草の匂いの爽やかな大地のその身を休めましょう。森の梟の声は、はるかな幽暗の世界の感覚を囁きます。

キャンプの夜にのみ味わい得るなつかしい暗黒は、天地の霊と、小さい我との唯一の冥合の道場です。われわれはこの結縁すべき、尊い時期を失ってはならぬ。宇宙の霊と、我との、一重の黒いヴェールを軽くはずすことのできるのは、それはキャンプの夜を除いては得られないと信じます。



SCOUTING'S COMING HOME

営火プログラム作成例　屋外用(60分)

時　間	担　当	内　　容	備　　考
		入場 タイマツの入場	夜の歌のハミングで入場 （場内、静かに） とび矢、火薬等の仕掛け方式は代替を準備
5’	エールM	点火 オープニング・ソング 営火長の話	スタンツ（ジャマイカ土人のイエール） 全員で歌えるもの（キャンプファイヤーの歌）
3’ 3’ 5’ 3’ 3’ 5’ 3’ 3’ 5’ 4’ 3’ 5’ 2’	エールM エールM エールM	S・山賊の歌 班　ソング 班　スタンツ S・フグロウの歌 班　ソング 班　スタンツ S・シンシャングリグリ S・ユポイヤイヤイエーヤ 班　ソング 班　スタンツ S・ホキトキウンパ 班　ソング 班　スタンツ S・一日の終り	cf・手のひらを太陽に ・線路は続くよどこまでも cf・山の子の歌 ・チビッコとノッポ cf・ロックマイソール ・台湾のあひる cf・ニンジン大根カブラ ・かわずの夜回り cf・アチャパチャノーチャ ・魚・鳥・木 ・カジ屋とコナ屋 cf・永遠のスカウト ・今日の日はサヨナラ
5’	営火長	夜　話	＊　ハミングで導入

＊リーダーのスタンツは面白い、但し、乗りすぎて時間超過しないよう。
＊営火終了後の伝達は簡単に、営火の余韻を残してスカウトをサイトへ

テーマ「インディアンのとりで」（ＢＶＳ隊）

時　間	担　当	プログラム	備　考
	ＡＢＶＬ 団委員	準備（薪組をする）	薪 バケツ４ケ シーターポン
	ＡＢＶＬ	集合（各自扮装をして）整列・待機 ・営火長、エールマスター、 ファイヤーキーパーは所定の位置 にて待機	
	ＡＢＶＬ	入場 引率者を先頭に一列にて入場 「遠き山～」を歌いながら、２番はハミング、場内一巡したら着席 （火は点火しておく）	懐中電灯
	ＹＭ	Ｓ「もえろよ　もえろ」 全員で歌う	
	補助者	スカウトの出し物 Ｓ「すいかの名産地」の替え歌	
	ＡＢＶＬ お父さん	ＡＳ「インディアンの踊り」 太鼓のリズムに合わせて	太鼓 バチ
	補助者	スカウトのスタンツ 「大きなかぶ」	
	ＢＶＬ	お話「インディアンの話」	
	ＡＢＶＬ	Ｓ「ぼくらインディアン」 キャンプだホイの替え歌	
	お母さん	ＡＳ「10人のインディアン」	
	ＹＭ 副団委員長	Ｓ「ゆうやけ　こやけ」 お話	
	ＡＢＶＬ	退場 「遠き山～」ハミングしながら 静かに退場	

テーマ・森林警備隊（ＣＳ隊）

時　間	担　当	プログラム	備　考
	ＡＣＭ	入場・静かに営火場を一巡して所定の位置に着席	薪組（井桁） バケツ４ケ そだ木
	ＡＣＭ	ナレーション（リーダー全員森林警備隊の扮装）	
	ＣＭ	点火	
	ＪＣＭ	Ｓ「営火の祈り」	
	ＣＭ	夜話	
	ＪＣＭ	Ｓ「燃えろよ　燃えろ」熊の扮装	
	ＪＣＭ	Ｓ「森の熊さん」 Ｓ「古巣」・・狐の扮装	
	１組 ＡＣＭ	スタンツ Ｓ「森へ行きましょう」 Ｇ・魚・鳥・木	
	２組 ＪＣＭ	スタンツ ＳＡ「キング　コング」	
	３組 ＡＣＭ 団委員	スタンツ ＡＳ「クイカイマニマニ」 ＤＬ、お母さん ＡＳ「泣いた　泣いた」	
	４組 ＡＣＭ	スタンツ ＡＳ「チェッコレ」	
	Ｌ全員 ＪＣＭ	リーダースタンツ Ｓ「ツンパラリツンパ」	
	ＡＣＭ	森林警備隊のテーマソング 全員で	
	ＪＣＭ	Ｓ「シャローム」	
	ＣＭ	隊長の話	
	ＪＣＭ	ハミングをしながら退場	

営火プログラム例（ＢＳ隊）

時　間	担　当	内　容	プ　ロ　グ　ラ　ム
19:00	上　班	ｿﾝｸﾞ練習	スカウト広場でソング練習（気分の高揚）
:10		入　場	一列で営火場に入場（営火長は営火場にて待機）
:13	営火長	夜　話	営火長の歓迎の言葉
:18		点　火	マジック点火（ 電気方式 ）
:20	Ｙ　Ｍ	ソング	大きな歌（1 番から6 番まで）
	Ｙ　Ｍ	ソング	谷間のキャンプ
	Ｙ　Ｍ	ソング	サラスポンダ
:30	Ａ　班	スタンツ	「　　」
:35	Ｙ　Ｍ	ゲーム	カミナリさん
	Ｙ　Ｍ	ｱｸｼｮﾝｿﾝｸﾞ	ブタが道を行くよ
:45	Ｂ　班	スタンツ	「　　」
:50	Ｙ　Ｍ	ｱｸｼｮﾝｿﾝｸﾞ	ユポイ　ヤイヤイ　エーヤ
	Ｙ　Ｍ	ソング	年長隊富士野営
:55	Ｃ　班	スタンツ	「　　」
20:00	Ｙ　Ｍ	輪　唱	ローゼンフラフン
	営火長	夜　話	
	Ｙ　Ｍ	ソング	今日の日はさようなら～ハミング
:15	上　班	退　場	一列で退場

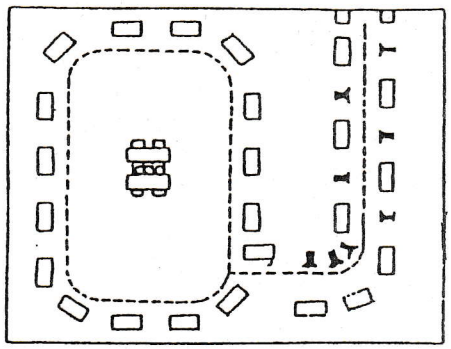
営火のプログラム例（ＢＳ隊Ⅱ）

時　間	担　当	内　容	プ　ロ　グ　ラ　ム
19:00	副　長	集　合	広場に集合し、副長から営火についての話を聞き、営火場に入場
:10	Ｙ　Ｍ	ソング	「夜の歌」（遠き山に　日は落ちて）
		営火長の入場	「夜の歌」ハミングで
:15		歓迎の言葉（営火長）	
:20	Ｆ　Ｋ	点　火	トーチにより点火（歌：営火の祈り）
:23	Ｙ　Ｍ	ソング	月下の営火
	Ｙ　Ｍ	ソング	燃えろよ　燃えろ
	Ｙ　Ｍ	ソング	谷間のキャンプ
:32	Ａ　班	スタンツ	「　　」
	Ｂ　班	ソング	「　　」
	Ｙ　Ｍ	アクションソング	親指ムービング
	Ｃ　班	スタンツ	「　　」
	Ｙ　Ｍ	ゲーム	キャッチ
:57	Ａ　班	ソング	「　　」
	Ｙ　Ｍ	アクションソング	チェッチェッ　コレ
	Ｂ　班	スタンツ	「　　」
	Ｙ　Ｍ	ゲーム	ウルトラジャンケン
	Ｃ　班	ソング	「　　」
	Ｙ　Ｍ	ソング	どこまでもゆこう
20:20	営火長	夜話	
:25	Ｙ　Ｍ	ソング	ひとひの終り
:30	副　長	退場	一列で退場（無言）

室内営火（模擬営火）　【60分】

時　間	担　当	プログラム	備　考
	リーダー	・「夜の歌」ハミングで入場 ・営火長入場 場内を一周して着席 （営火長が着席するまでハミング）	模擬用薪 セロハン 電球
	YM 営火長 YM 1組 YM 2組 3組 リーダー YM 4組 営火長 YM	・エールマスターの合図で点灯 （合図があるまで部屋を暗くする） S「燃えろよ　燃えろ」2回 S「月下の営火」 営火長の話 S「大きな歌」楽しく全員で AS「オニのパンツ」 2~3番は全員で G　魚・鳥・木 問答に負けた人達は罰ゲーム （ゴキブリアース） AS「ブタのブンチャッチャ・ダンス」 「森の熊さん」・全員参加させる スタンツ（リーダーとして真価を発揮） S「すいかの名産地」 （初めはゆっくり、段々早く） スタンツ…民話から 夜話（今日の営火が心に残るように） S「ふくろうの歌」	
	YM	S「今日の日はさようなら」 徐々に営火も消えて 静かに退場	

室内営火の準備と工夫



1．薪は室内で行う為、本物で無くても良い。新聞紙や、空き缶等を利用すると良い。

2．火は懐中電灯を使用。
組んだ薪の中に2~3本の懐中電灯を斜め上向きに赤い布や、セロハンを使って炎に見せる。

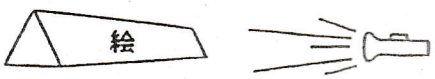
3．営火室の工夫

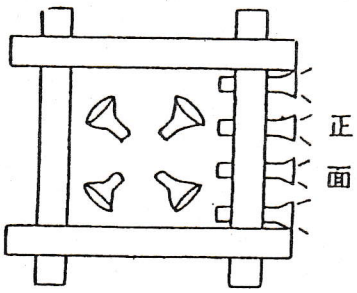
懐中電灯を床の上に置いて誘導灯を作る。

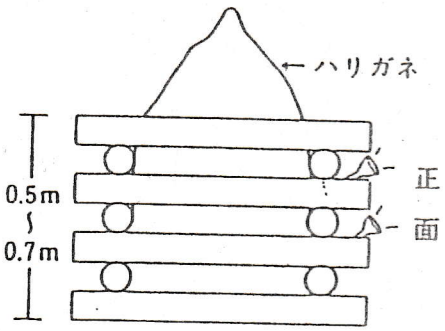
○懐中電灯の照明位置に画用紙に絵を書いて置くと、暗い部屋に絵が浮かび上がって、美しく見える。

○懐中電灯のレンズにカラーセロハンを巻くのも良い。

[絵は、花や風景等]







〔薪も新聞紙や空缶で作る〕

営火用ソング　例

「」内はＣＳ・ＢＳ歌集に収録されています。

１．静かな歌　（導入の部）

・夜の歌　（遠き山に　日は落ちて）[CS.BS]
・営火の祈り（火をともすごとに　ひざをかがめ）[BS]
・別れの営火（夜ごとにたきしかがり火）[BS]
・名残りの営火（名残のかがり火はわれらの友がきを）[BS]
・まどいは果てぬ（夕月山の端にかくれ）[BS]
・山賊のうた（雨が降れば　小川ができる）[BS]
・森の野営　（ゆうもやこめて　ふくろがなく）[CS]
・星の界(は)（月なきみ空に　きらめく光　ああその星影）
・山の友よ（薪割り　飯炊き　小屋掃除　みんなで）[BS]
・遙かな友に（野営の夜はいつしか更けて　思い出すのは）[BS]

２．盛り上げる歌

・森の仲間（聞けよ聞け　招く山の叫び）[BS]
・月下の営火（今宵この森に　楽しき　まどいせん）[BS]
・燃えろよ　燃えろ（燃えろよ　燃えろよ　炎よ燃えろ）
・大きな歌（大きな歌だよ　あの山の向こうから）[BS]
・谷間のキャンプ（森の深く　谷あい）[BS]
・一級旅行（出発だ　出発だ　一級旅行）[BS]
・キャンプだホイ（キャンプだホイ　キャンプだホイ）[BS]
・ヤヤ　ヨーヨー　ユピ（ヤヤヨーヨーユピ　ユピヤ）[CS,BS]
・ユポイ　ヤイヤイ　エーヤ（ユポイヤイヤイエーヤ）[BS]
・ジャンボリー（ジャンボリージャンボリージャンボ）[BS]
・狩りの歌（ジャンドンドン　ジャンドンドン）[CS]
・ぼくの名は金太郎（チョロリ出たさわがに）[CS]
・カブスカウトだ（カブスカウトだ　カブスカウトだ）[CS]
・わんぱくマーチ
・シンボンボン（シンボンボン　トラララ　リカリカ）[BS]

3．輪　　唱　（カノン）

・静かな湖畔（静かな湖畔の森のかげから）[BS]
・野山の行脚（野山のあんぎゃに　さとき心を）[BS]
・クカブラ（クカブラ　ゴムの林で）[CS, BS]
・森の熊さん（あるう日　森のなか　熊さんに）
・トムバイ（トムバイトムバイトムバイ）[CS. BS]
・ローゼンフラフーン（ローゼン　フラフーン）[CS, BS]
・鐘　　（ゴーン　ゴーン　ゴーン）[BS]
・蛙の合唱（かえるのうたが　きこえてくるよ）
・キャンプの歌（しずかにふけゆくキャンプの夜）[BS]
・火が燃える（火が燃える　火が燃える　パチパーチ）[BS]
・かがり火（夜のとばり　深くおりて）[BS]
・ジャンボリーはははは（ジャンボリー　ジャンボリー）[BS]
・いつも元気（空は晴れわたって　鳥は　さえずりなく）[CS]
・森の野営（夕もやこめて　ふくろうが鳴く）[CS]
・バナナ（スィースィ　スィースィ　デラリューナ）[BS]

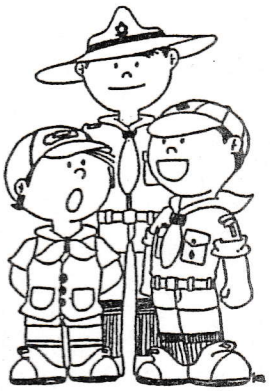
4．心をひとつにする歌

・エーン　ゴンヤーマ（エーンゴンヤーマゴンヤーマ）[BS]
・KUM　BA　YAH（Kum　ba　yah）[BS]
・T. I. R. O（TIR　TIR　TIRO）[CS, BS]
・森の熊さん（あるひ　森のなか　熊さんにであった）
・しらかば林（しらかば林ビーバーのすみか）[BS]
・ロックマイソー（ロックマイソー　みんなでうたおう）[CS]
・ハレルヤ（マイケル　ロウ　ザ　ボート　アショウ）
・Ｓａｒａｓｐｏｎｄａ（サラスポンダ　サラスポンダ）[BS]
・どこまでもゆこう（どこまでもゆこう　道はきびしく）[BS]
・むこうのお山（むこうのお山に　黒雲かかれば）[CS, BS]
・平和の騎士（我ら平和の騎士ぞ　正義のために）[BS]
・カブスカウト讃歌（風にはためく　日の丸あおぎ）[CS]

5．動きのある歌

(1)アクションソング

・大きな栗の木の下で（おおきなくりの　きのしたで）
・帰ってきたウルトラマン（君にもみえる　ウルトラの星）
・サザエさん（お魚な　くわえた　どら猫を　追いかけて　はだしで）
・月光仮面の歌（どうこの　だれだか　知らないけれど）
・エイトマン（ひかるうみ　ひかるおおぞら）
・鉄腕アトム（そらをこえて　ゆくぞわれら）
・大工のキツツキさん（みどりの　もりかげに）
・ドレミ（ドーは　ドーナツのド）
・鬼のパンツ（おにのパンツは　いいパンツ）
・うさぎのパンティー（うさぎの　パンティー）
・しかのブリーフ（しかの　ブリーフ）
・くまのふんどし（くまの　ふんどし）
・ブタが道を行くよ（ブタが　みちをゆくよ）

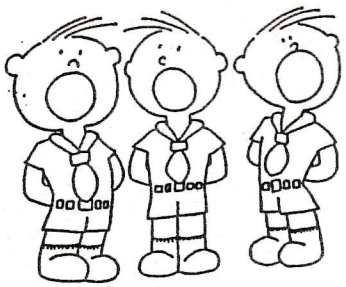


・おやゆびムービング（おやゆび　ムービング）[CS]
・お弁当ばこ（これっくらいの　おべんと　ばこに）
・アチャパチャノーチャ（アチャパチャノーチャ）[CS, BS]
・アブラハムの歌（アブラハムには　ひちにんのこ）
・電線音頭（あ　でんせんに　すずめがさんば）
・ロックマイソー（ロックマイソー　みんなでうたお）[CS]
・ホキトキ　ウンパ（ホキトキ　ウンパ　ホキトキ　ウンパ）[BS]
・まわるいたまご（まわるいたまごが　パチンとわれて）
・ホルドリア　クック（トラ　ラ　ラ　ラ　ラ　ラ　ラ）[BS]
・マル　マル　マル（マルマルマル　ダンゲナワマル）[CS, BS]
・ロンパ（ロンパ　ロンパ　キリカナン　キリ）[BS]
・ホーキポーキ（ホーキポーキ）
・フォージングダウン（フォージングダウン　シソシワラ）[BS]
・弁慶が（弁慶が　五条の橋を渡るとき　うんとこどっこいしょ）
・マオリ　ハーカ（マオリ　ハーカ　エーラン　アテラ　エエラ）[BS]

・頭・肩・ひざ・足（あたま　かた　ひざ　あし）
・チェッチェッ　コレ（チェッチェ　コレ　チェコレ）［BS］
・げんこつ山のタヌキさん（げんこつやまの　タヌキさん）
・おもちゃのチャチャチャ（おもちゃの　チャチャチャ）
・くわがた音頭（くわがたが　ガチガチ）
・ちょちょき（ちょちょき　でたでた）
・I’ve Got That B－P Spirit［BS］
・オ　ユポイヤイヤ　エーヤ（オ　ユポイヤイヤ　エーヤッ）［CS, BS］

⑵手をたたく歌
・幸せなら手をたたこう（しあわせなら　てをたたこう）［BS］
・森の熊さん（あるひ　森のなか　熊さんにであった）
・ビスター（フリーフリーフロー）［CS, BS］
・山男（むすめさん　よくきけよ）

⑶火のまわりをまわる



・気のいいアヒル
・クワッカ
・人参・大根・カブラ
・ゴキブリ
・アルプスのハイジ
・われは大蛇（われは　だいじゃ　わるいだいじゃ）
・シンシャングリグリ（シンシャングリグリグリグリワッシャ）［BS］
・クイカイマニマニ（クイカイマニマニマニマニダスキー）［CS, BS］
・ひよっこりひょうたんじま（なみを　チャップチャップ）
・電線音頭（あ　でんせんに　すずめがさんばとまってた）
・トムバイ（トムバイ　トムバイ　トムバイ　トムバイ）［CS, BS］
・台湾アミ族の牛追歌（エー　エー　エヤハハ　ハイヤー　ハー）［BS］
・象さんとくもの巣（ひとりのぞうさん　くものすに）［CS］
・ロンパ（ロンパ　ロンパ　キリカナン　キリ）［CS, BS］
・

6. 営 火 で の ゲ ー ム

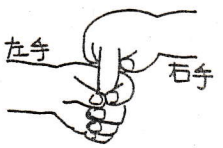
・キャッチ

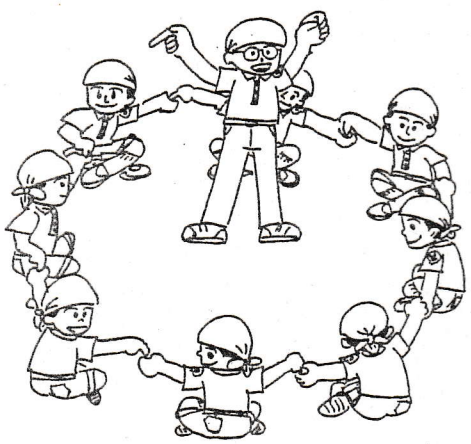
皆で丸くなる。左手の指で輪を作り、右手の人さし指は隣の人の左手の輪に入れる。

リーダー：「アップ」（右手を上にあげる）

① 「ダウン」（右手、人さし指を相手の左手の輪に入れる）

「アップ」「ダウン」――「キャッチ」（右手は相手の輪から抜き、左手は相手の人さし指を捕まえる）





リーダー：キャキャキャ　キャッチ（キャッチと言われたら、右手は逃げ左手は相手を捕まえる）

② 「キャベツ！」とか「キャラメル！」など紛らわしい物を言ったり、静かにそっと「キャッチ」と言ってみよう。

※左手も右手もアウトの時は円の中に入り、中どうしでやってみて、うまくいけば戻れるなどのルールを作っても楽しい。

・ウルトラジャンケン

リーダー：「ウルトラ　ウルトラ」両手を握り胸の前でグルグル回す。腰を左右にふる。「シュワッチ！」でお互いに、3ツのポーズのどれかをして、ジャンケンをする。

指をグーにして胸の前で交差する　人さし指中指2本で額の前　左手は手の平下で横に右手は立る

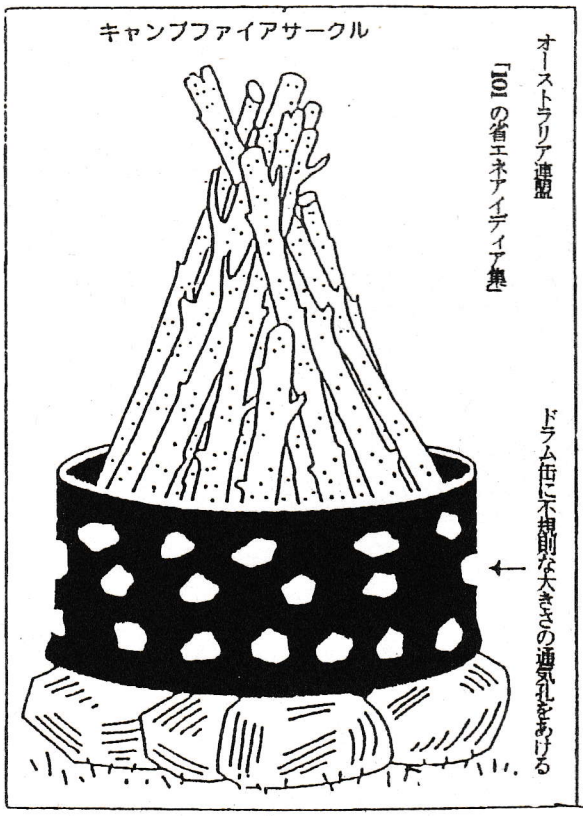
7. 終 り の 歌

・名誉にかけて（つつましくささげん　誠を神に）[BS]
・世界の総長（われらをむすび　はらからとし）[BS]
・永遠のスカウト（ひとたび　スカウトに　ちかいを）[CS, BS]
・この道を行く（このみちは　とおくて　はるかなみち）[BS]
・若者たち（きみのゆくみちは　はてしなくとおい）
・別れの営火（夜ごとにたきしかがり火　こよい最後の営火）[BS]
・名残の営火（名残のかがり火は　われらの友がきを）[BS]
・ひとひの終り（名残はつきねど　まどいは果てぬ）[BS]
・さよなら　さよなら（さよなら　さよなら　君に会えてよかった）[BS]
・夢はかよう（残りのほだ火あかく　あたりは暗し）[BS]
・今日の日はさようなら（いつまでも　たえることなく　友だちで）
・わが道を貫く（もえたつ緑の　那須野が原に）[BS]
・みちのくの（みちのくの　旅行く我ぞ　西那須の）[BS]
・懐かしの森へ（われはふくろ　たのしきふくろ　務めはたし）[BS]
・別れの歌（一つの森にむつまじく　はげみ合いたる道の友）[BS]
・ふるさと（うさぎ追いし　かに山　小ぶなつりし　かの川）
・小さな世界（世界中どこだって　笑いあり　涙あり）[BS]
・贈る言葉（くれなずむ　まちの　ひかりとかげ）
・銀色の道（つづく　つづく　はるかなみちは）
・どこまでもゆこう（どこまでもゆこう　道はきびしくとも）
・翼をください（いま　わたしの　願いごとが　かなうならば）
・昴（目を閉じて　何も見えず　哀しくて　目を開ければ）
・遠い世界（遠い世界に　旅に　でようか　それとも　赤い風船に乗って）
・さらば（ シャローム ）（またあうその日まで　さようなら）[BS]
・キャンプの歌（静かにふけゆく　キャンプの夜　やすらかに）[BS]
・懐かしの野営地（いざゆかん　懐かしの　夢のふるさと）[BS]
・旅愁（ふけゆく　秋の夜　旅の空の　わびしき　思いに　ひとりなやむ）
・楽しい集いいつか過ぎて（楽しつどいいつか過ぎて　別れの歌となりぬ）
・思い出のアルバム（いつのことだか　思い出してごらん）

ローインパクト キャンプ ファイヤーの巻

香川・三豊第三団カブ隊・隊長
田中雅文氏によるローインパクト
キャンプファイヤーの実践報告

☆「スカウティング」一九九一年六月号「実践　地球を守るプログラム」で紹介されていました矢島巌氏によるローインパクト・スカウティンの記事を興味深く拝見しました。私達の隊でも、カブキャンプで「跡形なしキャンプファイヤー」を実践してみる機会がありましたので、今回結果を報告します。



「スカウティング」九十一年六月号に紹介された「キャンプファイヤーサークル」①表土とその下に住む生命の保護　②薪の使用量の削減と地球温暖化ガス発生の減少③火のコントロールと残り火の利用がしやすい④後始末が簡単⑤跡に灰が残らない―といった効果があります。

＊「跡形なしキャンプ・キャンプファイヤー」のアイディアでピンチを乗りきる

キャンプは香川県三豊郡大野原萩の丘公園で行われました。この公園に営火場は一ケ所しかなく、当日他に子供会の方でもキャンプファイヤーを予定していたのでした。このため、当カブ隊で計画していたキャンプファイヤー

【参考資料】

キャンプファイヤー事例集作成にあたり、下記の資料から引用させていただきました。

・ボーイスカウト日本連盟スカウティング誌
・社団法人兵庫県こども会連合会
・日本レクリエーション協会
・子供の科学

日本ボーイスカウト兵庫連盟トレーニングチーム
キャンプファイヤー事例集作業班
第1版　製作作業チーム
作業主任　萩原光代（ALT）
大後戸武子（ALT）
野上一恵（ALT）

第2版　製作作業チーム
中山基（L　T）

平成12年10月15日　初版発行
平成14年　5月15日　改訂版発行
発行　日本ボーイスカウト兵庫連盟　トレーニングチーム
〒650-0044　神戸市中央区東川崎町1丁目1の3
神戸ハーバーランド神戸クリスタルタワー7F
TEL(078)360-8570　Fax(078)360-8571